

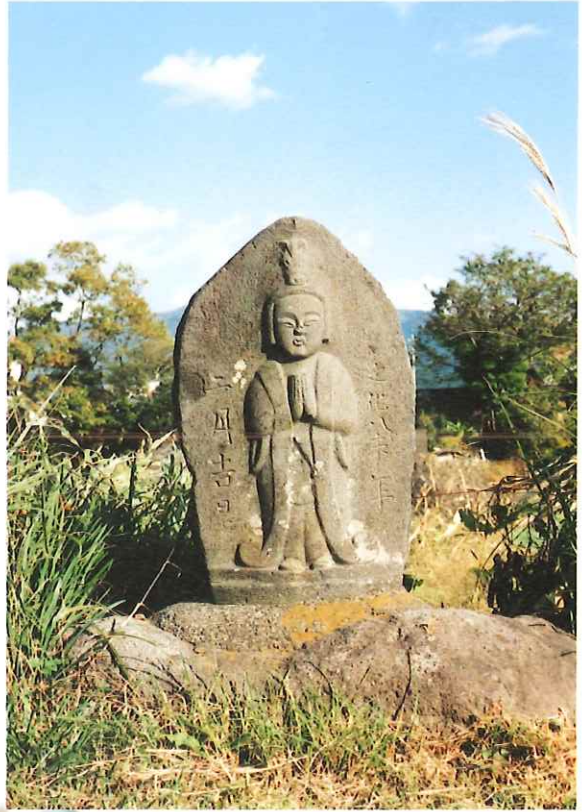
裾野の

石造物

下



水窪・庚申塔 貞享元年(1684)



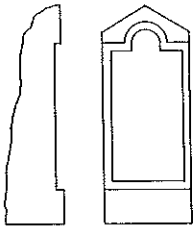
石脇・馬頭観音 文化8年(1811)



佐野・道祖神 (年不詳)

例言

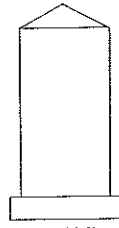
- 一 本書は裾野市史編さん事業の一環として行われた、石造物悉皆調査の報告書下巻である。はじめ上下二巻に収録する計画であったが、下巻に収録する予定の石造物の数量が多いため、下巻を地区別に中、下巻に分けたうちの下巻である。本巻は裾野市中央・南西部の石脇・佐野・大畑・桃園・富沢・二ツ屋・水窪・伊豆島田地区の石造物を収録した。
- 二 石造物のうち墓塔、屋敷神、個人の信仰に属するものは除き、民間信仰に係るものを調査の対象とした。中世の石造物もすべて収録した。ただし一部はすでに調査し報告してあるものがある。
- 三 石造物調査表、個別写真、図版像に付されている番号は、各区の石造物分布地図中の「①」の中の番号を示す。ただし「5-2」のような枝番をもつものは、「⑤地点の2番めの石造物」を示したものである。枝番は原則として右側から左側へ、手前から奥への順に付されている。
- 四 石造物調査表の「種類」とは、石造物の「名称」もしくは「分類」を意味し、石造物を建立するもとなった信仰内容が明確なもの、極力それによって分類し、信仰内容が不明なものは、像容、形態の面から石造物を分類した。風化、欠損して信仰内容、像容、形態等が明らかでない石造物は「不明」と表記した。
- 五 形状として示した主要なものは下図の通りである。野面を残した割石、切石は自然石の範疇仲間を含めた。



板碑



梯型



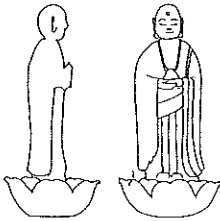
山型角柱



駒型



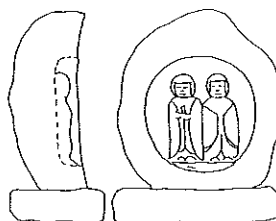
角柱



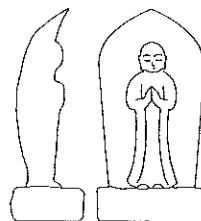
丸彫



浮彫



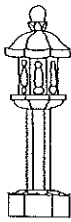
くり抜



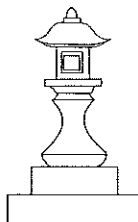
舟型浮彫



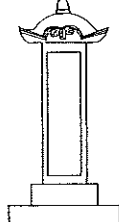
自然石



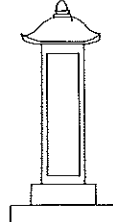
石礎



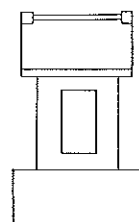
灯籠



笠唐破風角柱



笠付角柱



祠

六 法量は全高×全幅とし、共通の土台に乗るものは本体の法量とした。

七 調査表の銘文欄の(正)は正面、(右)は正面の右側面、(左)は同じく左側面、(背)は同じく背面(裏側)、(台座正、同右、同左、同背)は台座の銘文位置を示す。

八 銘文は原刻文を記録した。ただし旧字体については固有名詞(人名、地名)以外は一部新字体で記録した。略字、換字、宛字、異体字、行書、草書字体、くずし字等についても利用の観点から常用漢字などに改めたものもある。風化、欠損、欠落等によって読みとれないものは、□ □□で表わし、推定できたものは□の中はその文字を入れた。

九 同一石造物に二つ以上の異なる信仰内容の銘文が記されている場合には、その石造物の種類、名稱は正面の右側の銘文にある信仰内容をもとに分類した。また年号が二つ以上あるものについては、造立年号の古いものから順次記入した。

十 裾野市の巡礼巡拝供養塔は、その大半が「順礼」「順拝」のように刻されていることから、本書でも「順礼順拝供養塔」と表記した。またその特徴をより明らかにするため、観音信仰にもとづくものを「順礼供養塔」、信濃善光寺や四国八十八カ所巡りなど観音信仰以外のものを「順拝塔」として区分した。調査表の順礼供養塔のうち「(西)」と表記されているものは西国三十三カ所順礼の意味であり、同様に「(坂)」は坂東、「(秩)」は秩父、「(横)」は横道の各三十三カ所(秩父は三十四カ所)順礼を表わしている。また順拝塔の「(善)」は善光寺、「(四)」は四国八十八カ所、「(湯)」は出羽湯殿山大権現の各順拝を表わしている。

十一 灯籠は神社、寺院などの信仰の対象となるところに建てられたものを石灯籠とし、地方的特徴をもつ秋葉信仰に関係するものは「秋葉山供養塔」とし、常夜塔と刻銘のあるものはその刻銘を種類名稱とした。

十二 信仰面から分類した石造物のうち、像容をもつものは備考欄にその像容を記した。

十三 使用された異体字の一覧表を作る予定であったが、印刷の関係で割愛することになった。

十四 調査は昭和六十三年から平成七年にかけて、考古部門の中野国雄、石田義明、瀬川裕市郎が実施し、民俗、近世部門の杉村 斉、岩田重則、松田香代子、伊東誠司が加わり、山本けい子、長田文代が調査及び調査個票の整理を担当した。さらに市史編さん室及び静岡県立裾野高等学校校郷土研究部、ほか関係諸機関の協力を得た。

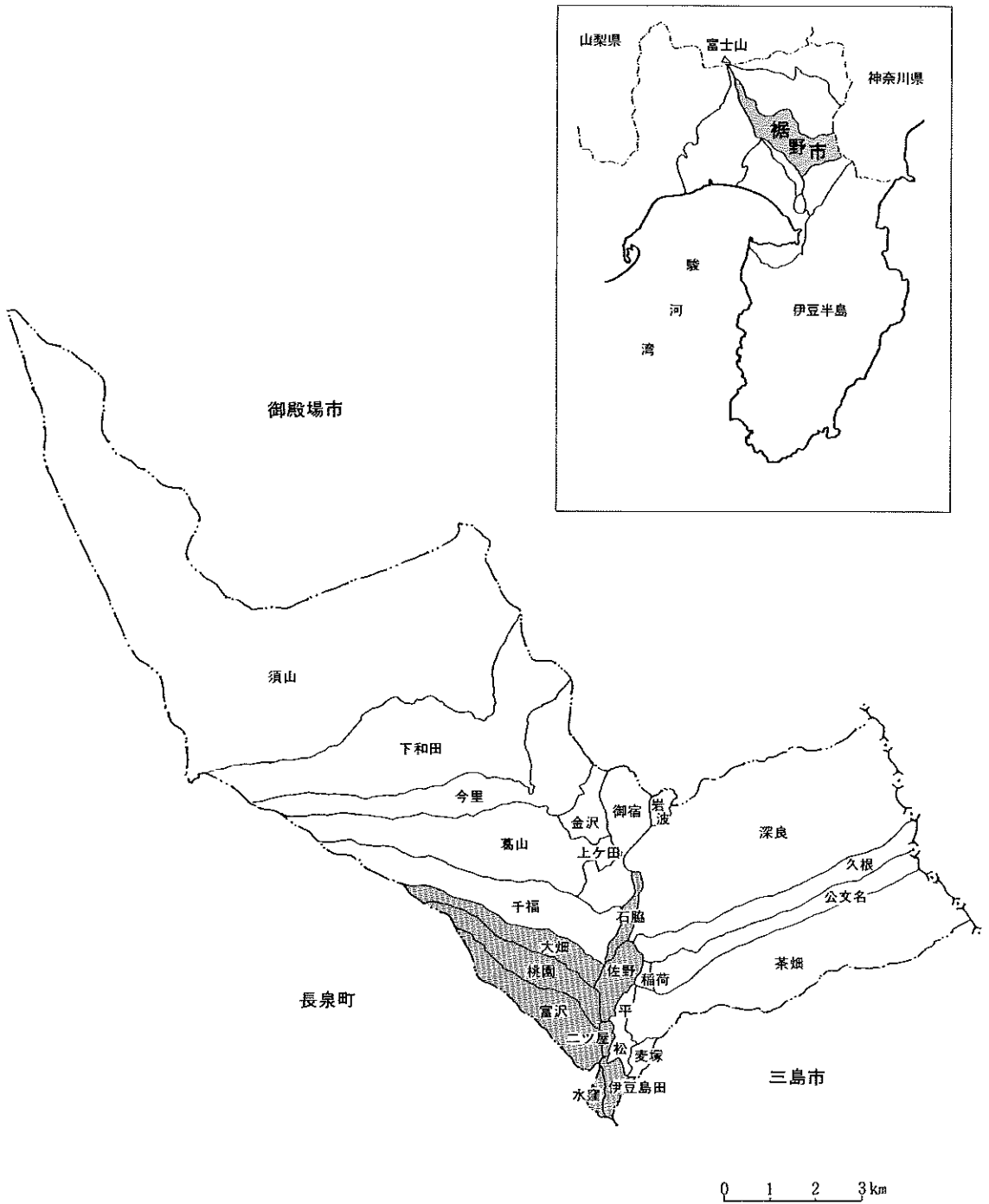
十五 写真、図版、分布図は永野武信が担当した。

十六 引用、参考文献は末尾に記載した。

目次

例言	1
一 裾野市中央・南西部の位置図と地区名	
二 裾野市中央・南西部地区の概要	1
三 調査地区	
(一) 石脇地区	
石造物の分布図	6
石造物写真・図版	7
石造物一覧表	17
(二) 佐野地区	
石造物の分布図	28
石造物写真・図版	29
石造物一覧表	47
石造物点描	66
(三) 大畑地区	
石造物の分布図	70
石造物写真・図版	71
石造物一覧表	77
(四) 桃園地区	
石造物の分布図	82
石造物写真・図版	83
石造物一覧表	93
石造物点描	107
(五) 富沢地区	
石造物の分布図	110
石造物写真・図版	111
石造物一覧表	123
石造物点描	135
(六) 二ツ屋地区	
石造物の分布図	138
石造物写真・図版	139
石造物一覧表	143
(七) 水窪地区	
石造物の分布図	148
石造物写真・図版	149
石造物一覧表	157
石造物点描	166
(八) 伊豆島田地区	
石造物の分布図	170
石造物写真・図版	171
石造物一覧表	183
追補	198
四 統計表	203
五 石造物の種類別解説	205
六 石造物の周辺	220
七 まとめ	226
八 (一) 石造物調査の対象	227
(二) 石造物の種類について	228
(三) 法量について	229
(四) 石工について	234
(五) 石工の道具	237
(六) 石の産地	239
(七) 石造物統計表	294
九 編集後記	295
十 裾野市史編さん室関係者名簿	

裾野市(中央・南西部)の位置図と地区名



裾野市中央・南西地区の概要

今回、下巻に収録した地区は、市のほぼ中央部にあたる石脇、佐野、二本松、二ツ屋、伊豆島田、水窪の黄瀬川東岸の地区と、この黄瀬川に合流する佐野川以南の愛鷹山麓の大畑、桃園、富沢の地区である。

中央の地区は、上巻の地区概要で述べたように、今から約一二〇〇年前に起った富士山の大噴火によって流出した、幾層もの熔岩流によつて埋立てられた地域で、その後、度重なる土石流と、二八〇〇年前から二七〇〇年前に起った大規模な御殿場土石流に覆われたが、基盤の熔岩流上面は起伏に富み、その背部の一部は地表面に露頭となって現れ、また土石流の一部は盛り上がりつつ縦縞状となり、大きな円石が露出している。このようなところは雑木林となつて、開けた景観に彩りを添えている。

愛鷹山麓や箱根山麓では、数万年前の旧石器時代からそれに続く縄文時代の遺跡が数多くあつて、早くから人々の生活があつたことが知れるのであるが、この地域にはこの時代の遺跡は現在のところ発見されておらず、長い間、無人の地であつた。この地区に初めて人の痕跡がみつかったのは、桃園橋南の黄瀬川東岸、佐野二本松下である。僅か数片の土器片であるが、これは弥生時代中期初めの紀元前一世紀頃の条痕文系土器といわれるもので、稲作技術をもつた弥生時代人が黄瀬川をさかのぼつて、この地域にたどりついた跡とみてよからう。しかし、これに続く遺跡や遺物はなく、僅かに対岸の富沢原地区に、弥生時代終わり頃の土器が出土しているだけで、人々

が定住して集落を形成するのは、古代も七世紀に入つてからである。

中央政府の全国統一が進むなかで、この地区は関東地方へ通じる重要な交通路となり、七世紀後半には官道の駅路うまやじが設定され、長倉駅と横走駅の間にあたる所と推定されている。現在、各地の駅路の発掘調査の結果では、直線の道路で、伊豆島田、水窪、佐野、深良を通つていたのではないかと考えられている。先年、発掘調査された深良上原遺跡や西原台、町田、茶畑天理教、最近発見された稲荷後、伊豆島田中曾根遺跡は、七世紀後半からの遺跡で南北に連続し、このなかで上原、天理教、中曾根遺跡からは墨書土器が出土しており、駅路と関係があることを示唆している。駅路には水と銅葉は（馬糞）の補給が必要で、深良古川や黄瀬川の分流大柄沢、小柄沢などは、十分その役割をはたすことができるし、これらの河川を利用して開発が始まり、前記のような集落が形成されたものと思われる。ただこれらの集落が行政的にどの郷に編成されていたかは明らかでない。

中世になると、この地区はかなり輪郭がはっきりしてくる。建長四年（一二五二）、「宗尊親王鎌倉下向記」によると、岡部、手越、興津は相模守、原中はらなか、阿野、黄瀬川、佐野は佐野の地頭、鮎沢は甲斐国が、それぞれ宿泊や昼食の世話をしたとあつて、佐野は黄瀬川と鮎沢の中間にあり、宿駅的な性格をもっていたことを示している。この宿駅性格の佐野は地頭が管理していたと考えられるから、周辺地区は佐野郷として、行政的に成立していたのではなからうか。「箱根山縁起」によると、建久二年（一一九二）、源頼朝が伊豆佐野郷を箱根神社に寄進したとあつて、この佐野郷は伊豆国にもまたがっていたと考えられる。佐野郷の範囲は、後世の文献では、久根、稲荷、

公文名、茶畑、麦塚、石脇、佐野、二ツ屋、水窪、伊豆島田であるが、これに伊豆佐野が入って、佐野郷であったと理解できる。

横道順礼の札所でもある佐野の時宗蓮光寺は、創建が弘安年間（一二七八〜八八）と伝えられている。時宗は念仏を唱え諸国を遊行して勸進し、人々の集まるところで説法するという宗旨から、この蓮光寺が創建以来、時宗でありその位置が変わっていないとすれば、佐野郷の西側地区は足柄路が通過していたのではなからうか。

鎌倉幕府滅亡後、佐野郷の地頭職（地頭の取分）が、鎌倉府（関東管領）から鎌倉円覚寺の造営料に宛てられて円覚領となるが、鎌倉府の内部争いなどによって勢力が後退すると、円覚寺領の地位もあやしくなると、一五世紀には在地豪族葛山氏の支配領となる。その後、佐野郷は戦国時代の永祿年間（一五五八〜七〇）、葛山氏が武田氏に所屬して転出したあと、後北条氏の支配となるが、天正一八年（一五九〇）、後北条氏滅亡の後、豊臣氏配下の大名領となる。関ヶ原の戦（一六〇〇）の後、徳川幕府の体制下に入って、郷は分解し近世の村々に変貌していくのである。

次に近世の石造物の造立に深い係わりのある村々の生産状況を、天明元年（一七八一）の深良用水二九ヶ村高反別書上帳によってみると、石脇村は石高一五七石余のうち畑高は三〇石余で、田高の占める割合は八一%、佐野村は石高五六三石余のうち畑高は三七石余で、田高の占める割合は七六%、二ツ屋村は石高五〇石余のうち畑高一四石余で田高の占める割合は七二%、伊豆島田村は石高三〇七石余のうち畑高は約七〇石で、田高の占める割合は七二%、水窪村は石高一八四石余のうち畑高は一三石余で、田高の占める割合は九九、九%で、すべて田場所の村々であったといえるだろう。

ところで、延享二年（一七四五）の水窪村書上明細帳、慶応四年（一八六八）の石脇村差出帳によると、もともと、これらの村々は黄瀬川水系の自水（地水）の村々であったが、深良用水新川堀が完成して、芦ノ湖の水が黄瀬川に加わされたことにより、深良用水組合の村々になったとしている。この結果、石脇村では田高が二一%、佐野村では五七%、二ツ屋村は一〇〇%、伊豆島田村では二九%、水窪村では〇、〇七%ほど増加している。

次に村々の特色をみていくと、石脇村は黄瀬川と大柄沢の間に挟まれた南北に細長い村で、石脇で御宿、上ヶ田方面へ通じる黄瀬川の渡河地点がある。佐野村も南北に延びる村であるが、旧箱根裏街道沿いに蓮光寺のところから上宿、中宿、下宿という地名があり、ここが宿駅的な性格を持ったところであったことを示している。なお二本松は沼津宿と三島宿へ通じる道の分岐点であったとする。伊豆島田村と水窪村には、「十分一番所」という関所があって、この地域の人々が沼津宿や三島宿の商人へ生産物を売りに出したが、ここで運上金を納めなければならなかった。また佐野村と水窪村は、沼津・三島宿と甲州郡内を結ぶ交通上の継場で、馬で荷物を継ぎ送りして駄賃を稼ぎ、急送の品物からは口銭（手数料）を取ったという。黄瀬川西岸の西地区は、愛鷹山の主峰位牌岳より東南に枝状に派出した尾根末端の山麓地帯で、小さな入谷があり、沢水によって潤っている。山麓には台状の平坦面があって、旧石器時代から縄文時代の遺跡があり、なかでも桃園尾畑遺跡からは、縄文時代のヒスイ製大珠を始めとして、顔面把手付土器、高七〇センチメートルにもなる大形土器が出土して注目されている。また大畑熊野神社には顔面にイレズミ（刺青）文様のある土偶（人形）が所蔵され、富沢細

山からは釣手形土器が出土していて、箱根山麓とは違った様相を示している。

弥生時代に入ると、富沢原遺跡から後期末の壺形土器（前出）が出土しており、山麓からは同じ頃の頁岩製の有孔磨製石鏃が発見されているが、資料が少なく実態は明らかでない。その後、この地区の様相は不明であるが、富沢細山下の東名高速道路の橋下付近から、七世紀代の須恵器甕が出土し、また、この頃の土師器片が、とどころこ散布しているので、七世紀代頃から人々が住み始めたのではなからうか。

昭和五九年（一九八四）、国道二四六号バイパス建設工事によって、大畑の大畑城西曲輪跡と、その南裾部に接続する上屋敷、中屋敷の西側部分が路線内に入り破壊されることになったため、裾野市教育委員会で発掘調査した結果、予想外の事実がみつかった。これを簡単に説明すると、大畑城西曲輪跡からは、一三世紀後半から一四世紀代の中国産画花文青磁碗破片や、中世も年代のさかのぼる逆刺の深い大形脇扶鋸^{わきくろぎ}などが出土し、大畑城跡は戦国時代の葛山氏の城とされてきたが、殿屋敷といわれる居館跡と山城跡が一体となった鎌倉時代の古式の城郭であることが判ってきた。

上屋敷からは、東西四間、南北一〇間の巨大な建物跡が二棟、三×五間の建物跡一棟、鍛冶、鑄造の工房跡一軒、二七基の鍛冶址、木柵をまわした一辺二、四メートルの領主級の方形集石墓一基が検出され、これらの遺構から、一一世紀後半から一三世紀の南宋、元初期の中国産白磁、青白磁、青磁の碗、壺、合子^{ごうし}（香入）や、同時代の常滑、渥美古窯産の大甕、壺、鉢、坏のほか布目瓦、かわらけ（燈明皿、酒坏）、大小の刀子（ナイフ）、雁股鋸、尖根鋸、刃物、大小

の釘類、くさび、鏢^{おぼり}、獸足などの鉄製品、鍛冶址からは羽口^{はぐち}、鉄滓^{てつさい}、金膚^{かなはだ}、多量の木炭などが出土し、このほか特殊な遺物として鉄製の人形^{ひとがた}（呪物）、温石^{おんせき}（かいろ）、硯石、刻線入石板などの特殊な遺物が出土し、平安時代末から鎌倉時代初期にかけての極めて特異な遺構と遺物が発掘されたのである。現在のところ、大畑のこの遺跡の性格は、巨大な建物群、鍛冶集団の鉄製品の生産と、領主級の中世墓が存在したという以外には、何も判っていないのである。

なお、大畑上屋敷に接した古城跡^{こしろせき}（字名）からは、同時代の経塚が発見されており、常滑古窯産の大甕、渥美古窯産の経筒を入れる外筒容器が発見されており、大畑城跡や上屋敷遺跡と深い関連のあることを示唆している。また、富沢の山麓末端の牧橋尾からは、鎌倉時代の菊花双雀文鏡が出土しており、この鏡は経塚に埋納されることが多いとされている。

大畑より南の黄瀬川西岸の地域は、平安時代末には大岡荘に属していたとされる。大岡荘は初め大岡牧といい、その範囲は愛鷹山南麓の沼津市の根方一帯から大畑までの丘陵山麓地域で、奈良時代には官牧（政府の牧場）であったという。やがて平安時代には私牧となり、一二世紀には平頼盛の領有となっていて、鎌倉時代には北条時政が地頭職を持っていたという。大畑の遺跡は、大岡荘と関係があるのではないかと考えられる。

鎌倉幕府滅亡後、大岡荘は足利幕府の支配下に入るが、応安四年（一三七一）、荘内の牧ノ御堂、岡宮浅間宮、大幡寺別当職は、鎌倉鶴ヶ岡八幡宮の神宮寺の僧頼印に安堵されているが、この大幡寺という寺は大畑にあったといわれる。応永二年（一四一四）、この三所の別当職は、京都醍醐寺の持田に与えられている。茶畑有井家蔵

の高田氏重代之旧記によると、祖有井宗季は永正五年（一五〇八）、大幡寺に入って剃髪し無塵軒と号したとあり、同じ寺であろうか。一五世紀後半には葛山氏の南進に伴って、その支配領域に入っていたと考えられる。

旧定輪寺村（現桃園）は、寺院集落の村で、寺記によると、延暦年間（八二七〜八〇六）、空海の創建であるとされる。ついで延喜二年（九一二）、桃園親王（清和天皇皇子）が開基となり阿闍利道本を開山として桃園山定輪寺としたという古刹である。その後、永享一二年（一四四〇）、真言宗から曹洞宗に改宗した。三代宗悧の法弟であったとする連歌師宗祇の墓がある。また、駿河の守護今川氏は本寺を手厚く保護している。

富沢村は、集落の西側に広がる入谷を開発して成立した集落であるが、古代、中世は明らかでない。一六世紀の後半、葛山、今川氏の後退とともに、これにかわってこの地区は武田氏の支配下に入るが、天正一〇年、武田氏滅亡後、豊臣、徳川氏の支配となり、近世を迎える。

この地区の近世初め頃の生産高をみると、大畑村は四六石余、定輪寺村は二二石余、富沢村は一三八石余しかなく、極めて規模の小さな村落である。しかし、この生産高は田畑だけの表向きのものであって、地図をみれば判るように、愛鷹山麓のほかの村々と同じように奥行きが深い。いちばん生産高の少ない定輪寺村でさえ、面積は佐野村より大きい。勿論、これらの殆どは山林であるが、本書の中巻で述べたように、建築材をはじめとして薪・炭の燃料、そのほか山菜類の食料品など、季節に応じての産物を出荷して生計を維持していたものと思われる。このためか村々の境界争いが目立ってい

る。

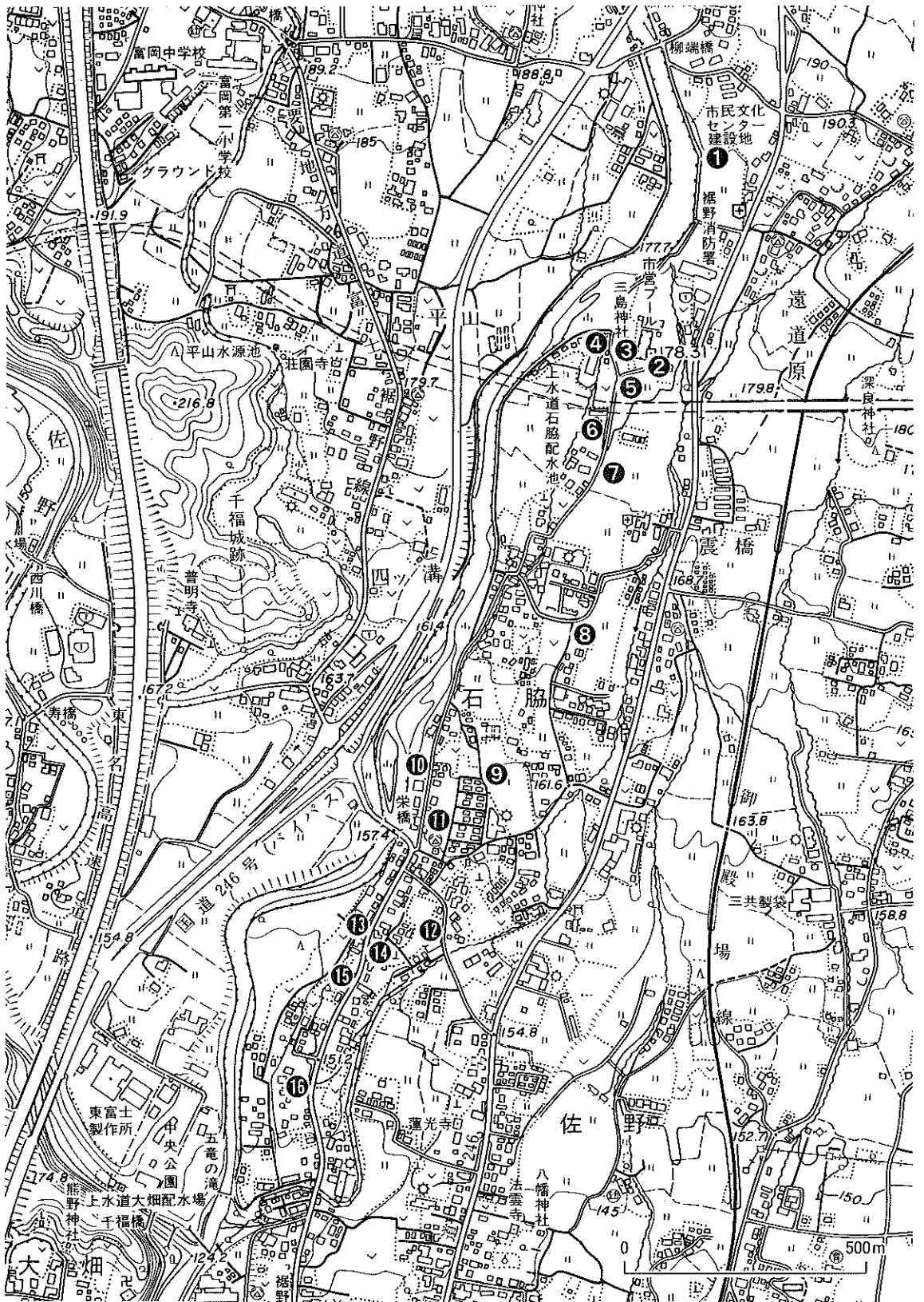
寛文十一年（一六七二）、深良用水の完成によって、定輪寺村では、従来の一二石余が用水掛りとなり、富沢村では三〇石余が用水掛りとなっている。この二村の用水掛高は、前々からの富沢穴という掘貫穴用水の水田高で、その成立は石脇村や佐野村の大柄沢、小柄沢用水と同じように、富沢掘貫穴用水の成立も、深良用水以前のものと考えると考えられる。しかし芦ノ湖の水が深良用水が黄瀬川に加水されたことよって、富沢村では一五石余の畑成田ができています。

近世を通じて石脇・佐野・二ツ屋・伊豆島田・水窪村は小田原藩領、後に水窪村は沼津藩領となっている。大畑・定輪寺・富沢村は天領であったが、元禄十一年（一六九八）、旗本領となっている。近代に入って、明治二三年（一八九〇）、石脇・佐野・二ツ屋・伊豆島田・水窪・富沢は小泉村となり、東海道線も開通して近代化の道を歩むことになる。大畑・定輪寺村は富岡村の大字となり、明治末、定輪寺は桃園と改称する。

引用参考文献

- 駿河記 駿国雜誌 静岡県駿東郡誌 裾野市史第一巻資料編考古
同第二巻資料編古代・中世 同第三巻資料編近世
東島誠「中世駿東の歴史的位置」裾野市史研究第六号（一九四四）
裾野市史第六巻資料編深良用水
深良用水の沿革（静岡県芦湖水利組合 昭五四）
角川日本地名大辞典22 静岡県（角川書店 昭五七）
駿河の古寺（静岡郷土出版社 平一）

石 脇 地 区



石脇地区



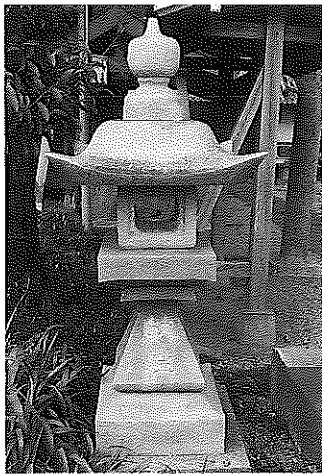
1 文学碑（歌碑）



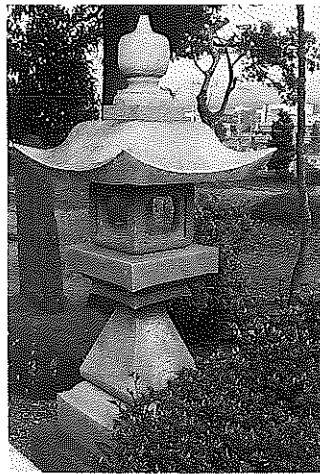
3 三島神社



2 諸神（稻荷神）



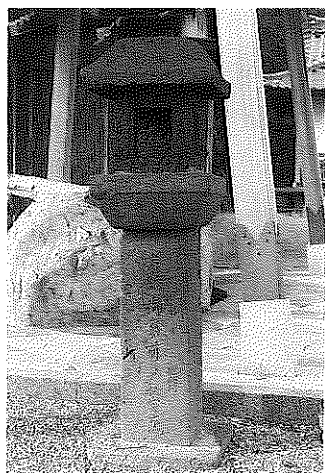
3-3 石灯笼



3-2 石灯笼



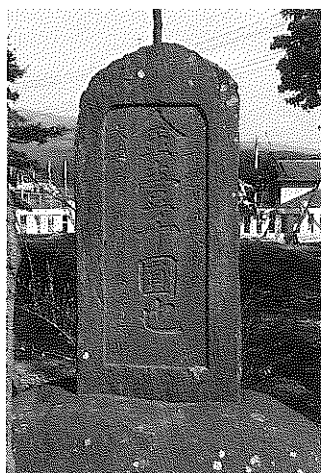
3-1 神社標石



3-6 石灯笼



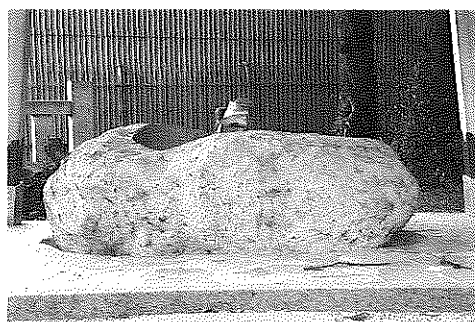
3-5 石灯笼



3-4 碑 (寄付金記念碑)



3-9 手洗石



3-7 手洗石



3-12 狛犬



3-11 狛犬



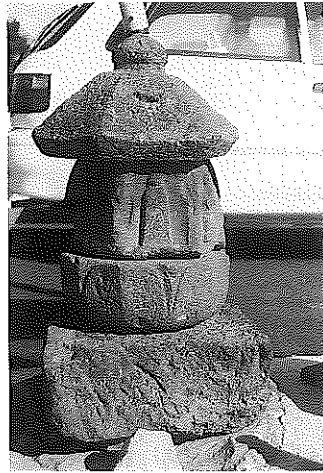
3-10 碑 (石脇地名由来碑)



5 福祉健康会館、駐車場



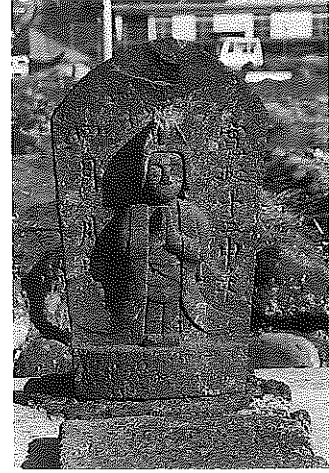
4 碑（水源記念碑）



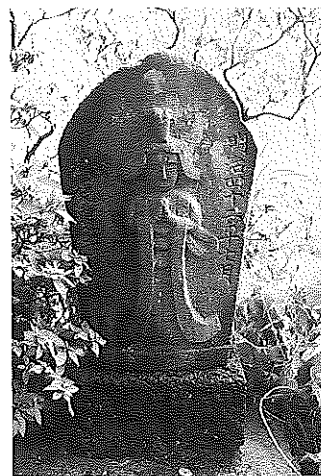
5-3 石幢（部分）



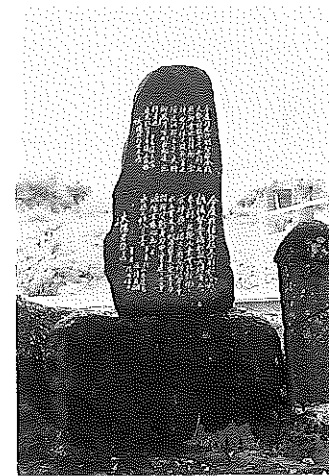
5-2 石灯籠（部分）



5-1 馬頭観音



7 馬頭観音



6 石造物（軍功記念刻石）



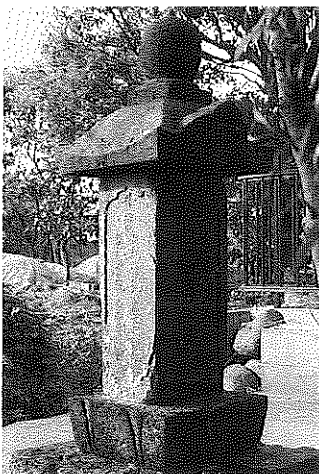
8-2 道祖神



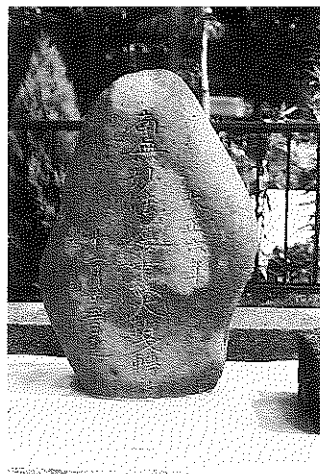
8-1 轡立



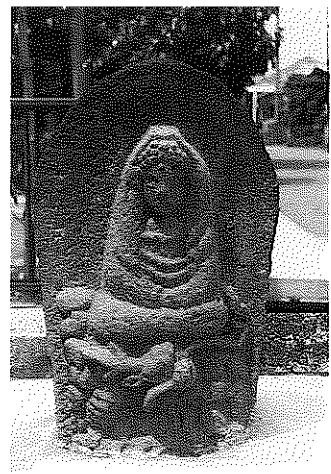
9 馬頭観音



10-3 順礼供養塔(西・横堂・坂・秩)



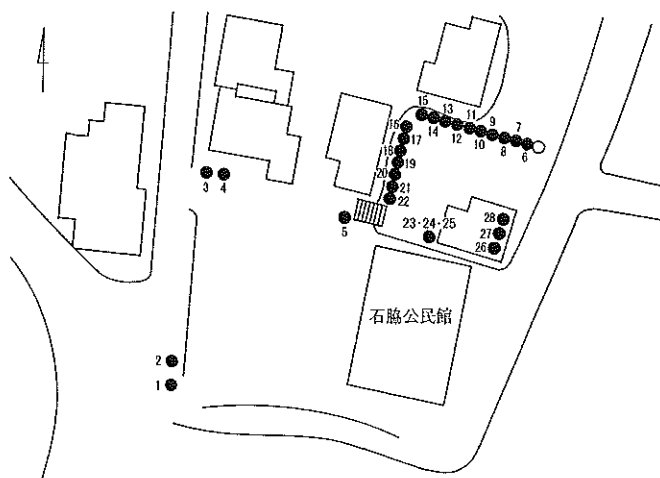
10-2 弁財天



10-1 弁財天



11-1 幟立



11 石脇公民館



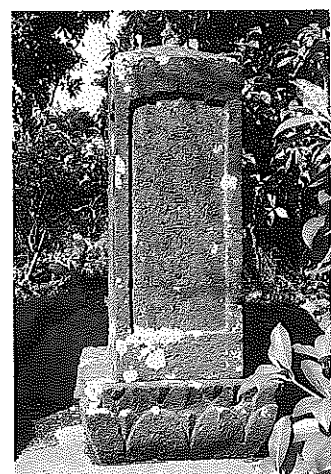
11-4 木食名号塔



11-3 地藏菩薩



11-2 道祖神



11-8 順礼供養塔(西・横道)



11-7 馬頭観音



11-6 馬頭観音



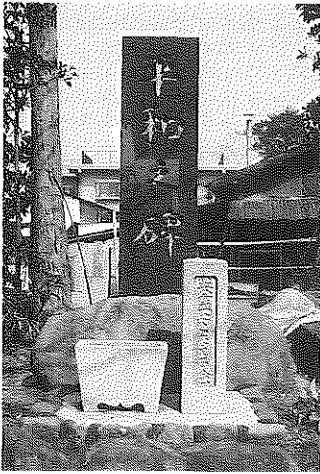
11-11 馬頭観音



11-10 順礼供養塔（横）



11-9 順礼供養塔（秋・坂・西・横堂）



11-15 碑（平和之碑）



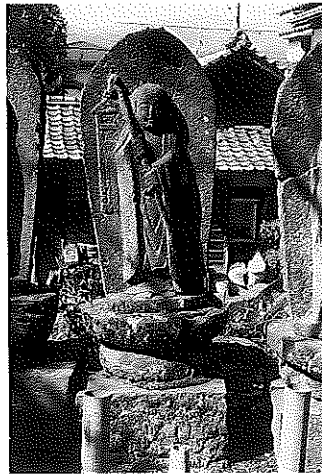
11-13 念仏供養塔



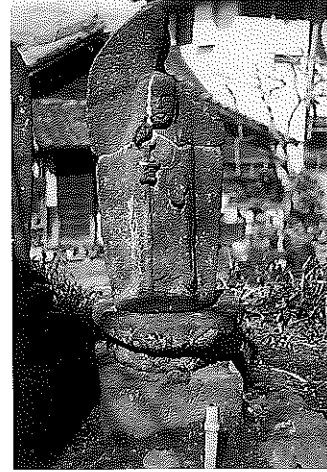
11-12 庚申塔



11-18 地藏菩薩 (六地藏)



11-17 地藏菩薩 (六地藏)



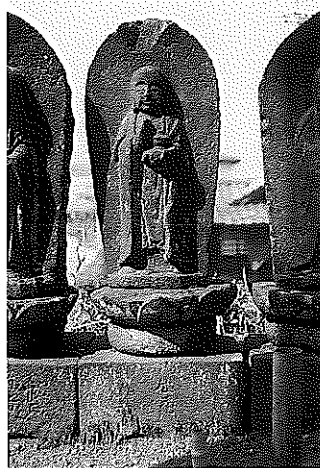
11-16 地藏菩薩 (六地藏)



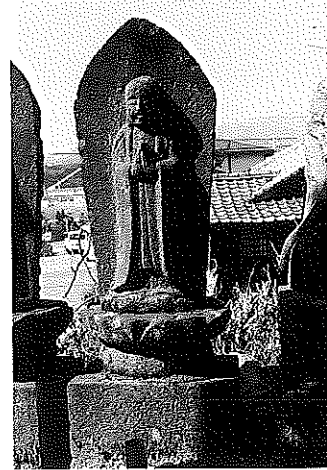
11-19 閻魔



11-22 地藏菩薩 (六地藏)



11-21 地藏菩薩 (六地藏)



11-20 地藏菩薩 (六地藏)



11-23. 24. 25 力石



11-28 薬師如来



11-27 観音菩薩



11-26 庚申塔



13-2 水神塔



13-1 諸神 (稲荷神)



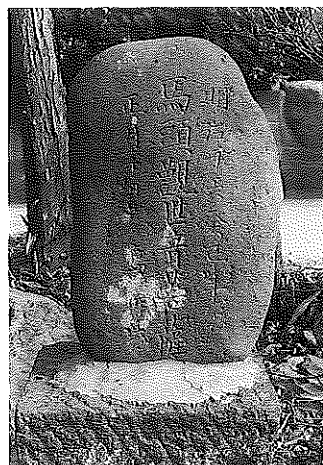
12 唯念名号塔



16-1 碑（子育地蔵由来）



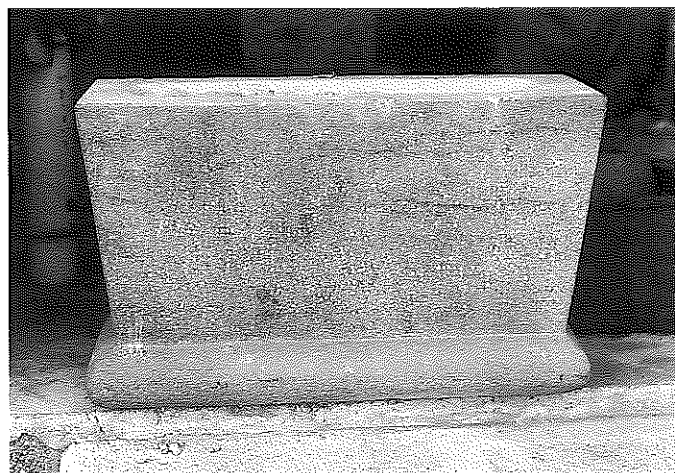
15 馬頭観音



14 馬頭観音



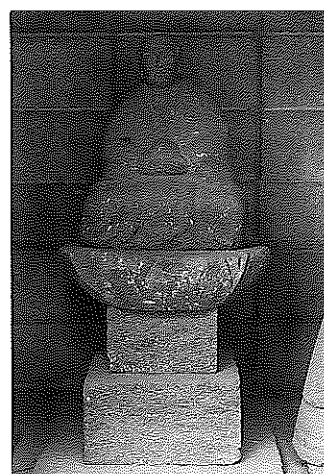
16-3 地藏菩薩



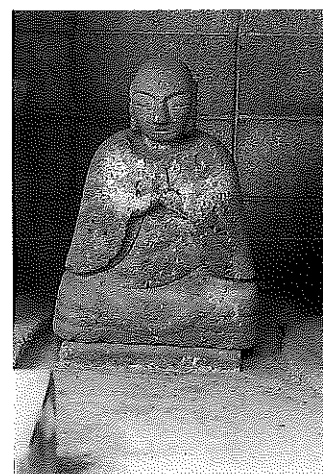
16-2 石造物（線香立）



16-6 地藏菩薩



16-5 地藏菩薩



16-4 地藏菩薩

石脇地区石造物一覽表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
3-1-5	石灯籠	灯籠	正徳2 (一七二二)	150 × 43	(正) 奉造立請願成就之所 (右) 正徳二壬辰年霜月吉日 (左) 施主 當岡 植松喜兵衛 (火袋補修)
3-1-4	碑 (寄付金記念碑)	自然石	大正13 (一九二四)	145 × 108	(正) 金壹千圓也 三島神社基本金 大正十三年 寄付者 鳥沢申太郎
3-1-3	石灯籠	灯籠	昭和47 (一九七二)	177 × 74	(正) 献燈 (右) 昭和四十七年四月 (背) 原陽一
3-1-2	石灯籠	灯籠	昭和47 (一九七二)	177 × 74	(正) 献燈 (左) 昭和四十七年四月 (背) 原陽一
3-1-1	神社標石	角柱	大正15 (一九二六)	276 × 115	(正) 郵社三嶋神社 (背) 大正十五年七月 氏子中
2	諸神 (稲荷神)	祠		82 × 54	
1	文字碑 (歌碑)	自然石	平成3 (一九九二)	216 × 275	別記1 (24頁)

4	3 12	3 11	3 10	3 9	3 8	3 7	3 6	番号
碑 (水源記念碑)	狛犬	狛犬	碑 (石脇地名由来碑)	手洗石	鳥居 (部分)	手洗石	石灯籠	種類
自然石			板 石	自然石		自然石	灯 籠	形状
昭和44 (一九六九)		昭和42 (一九六七)	平成8 (一九九六)				宝永5 (一七〇八)	造立年
104 × 106	162 × 160	158 × 162	140 × 77	64 × 130	29 × 45	78 × 205	140 × 42	法量 (cm)
(正) 記念碑 曩時町長藤原重治氏夙卜此地果斷勇行撥求水源於地下數百尺以築裾野町水道之基礎裨益町民甚大今茲稱其偉業刻石以伝後代云 昭和己酉夏建之	(正) 納	(正) 奉 (背) 昭和四十二年十一月三日 杉山武 植松春雄	別記2 (24頁)		(葉屋一對)		(正) 奉納 御寶前 佐野村 杵山幾右衛門 (右) 宝永五年 (左) 子一月吉日 (火袋補修)	銘 文 (備 考)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文	(備考)
5-1-1	馬頭観音	舟型立像	寛政12(一八〇〇)	67×42	(正) 寛政十二申年 四月月日	(舟型上部欠落)
5-1-2	石灯笼	灯笼	文化14(一八一七)	115×61	(正) 奉献御佛前 (右) 文化十四丁丑歳六月 (左) 施主 大庭甚右衛門	(中台破損・火袋欠落)
5-1-3	石幢(部分)	单制六面	正徳3(一七一三)	73×42	(台座) 正徳三年 巳十一月日 施主 杵山氏	(竿部欠落・龕部一部欠損)
6	石造物 (軍功記念刻石)	板石	昭和16(一九四一)	147×91	別記3(25頁)	
7	馬頭観音	舟型立像	明治42(一九〇九)	79×47	(正) 明治四十二年七月 大庭龜吉建之	
8-1-1	幟立			86×25		
8-1-2	道祖神(双体)	舟型立像		75×70		(舟型上部欠落・風化)
9	馬頭観音	舟型立像	文化8(一八一二)	95×104	(正) 文化八未年 二月吉日	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
11-6	馬頭観音	自然石	明治32 (一八九九)	60 × 50	(正)  観世音菩薩 明治三十二年 三月十七日 (上部欠落)
11-5	石段袖石	山型角柱	昭和10 (一九三五)	40 × 13	(左) 奉納 鳥澤由太郎 (右) 昭和十年九月 竣工 (一对)
11-4	木食名号塔	自然石	文政2 (一八一九)	135 × 84	(正) 木食観正 文政二卯年三月廿一日
11-3	地藏菩薩	舟型立像		116 × 50	(舟型一部欠落・頭部補修・台座別石補修)
11-2	道祖神(双体)	舟型立像		83 × 52	(風化)
11-1	幟立			152 × 53	
10-3	順礼供養塔 (西・横堂・坂・秩)	笠唐破風 角柱	元禄9 (一六九六)	150 × 68	別記4 (25頁) (一部欠落)
10-2	弁財天	自然石	大正6 (一九一七)	51 × 31	(正) 南無妙法蓮華經大辨才轉 大正六年 十二月廿三日建
10-1	弁財天	舟型座像		39 × 26	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
11-15	碑(平和之碑)	板石	平成5(一九九三)	148 × 115	別記9(26頁)
11-14	碑(開山記念碑)	自然石		131 × 88	(正)堂山開山行阿徳山法子 (割れ目補修)
11-13	念佛供養塔	山型角柱	寛政1(一七八九)	106 × 59	別記8(26頁)
11-12	庚申塔	笠唐破風 角柱	寛文10(一六七〇)	184 × 67	別記7(25頁) (二猿浮彫)
11-11	馬頭観音	自然石	享和2(一八〇二)	108 × 60	(正)馬頭観音菩薩 享和二年 戌九月日 <input type="text"/> 根氏
11-10	順礼供養塔(横)	舟型立像	元禄2(一六八九)	95 × 39	(正)奉造立石塔横道三十三箇所爲二世安樂 元禄二年己巳九月三日 駿河郡占沢庄石脇村同行六人 (舟型上部欠落/聖観音)
11-9	順礼供養塔 (秩・坂・西・横堂)	笠唐破風 角柱	正徳3(一七一三)	161 × 60	別記6(25頁) (宝珠一部欠損)
11-8	順礼供養塔(西・横)	山型角柱	寛保3(一七四三)	131 × 84	別記5(25頁)
11-7	馬頭観音	浮彫立像	天保6(一八三五)	74 × 40	(正)天保六未年 五月廿日 施主 喜二郎 (光背一部欠落・風化)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文	(備考)
11-24	力石	自然石		24 × 78		
11-23	力石	自然石		27 × 72	(正)石 長田 石脇村 五十貫	
11-22	地藏菩薩 (六地藏)	舟型立像		92 × 36	(台座正) 金治良 直吉 千代松 弥左衛門 林右衛門	
11-21	地藏菩薩 (六地藏)	舟型立像		91 × 35	(台座正) 徳藏	(舟型上部欠落)
11-20	地藏菩薩 (六地藏)	舟型立像		91 × 35	(台座正) 近右衛門 甚右衛門	
11-19	閻魔	丸彫座像		103 × 49	(台座正) 善吉 茂吉 平藏 与右衛門母 金五良	
11-18	地藏菩薩 (六地藏)	舟型立像		92 × 46	(台座正) 定輪寺村 弥右衛門 藤右衛門 民藏 重藏 峯藏	(台座一部欠落)
11-17	地藏菩薩 (六地藏)	舟型立像		91 × 31		(台座欠損)
11-16	地藏菩薩 (六地藏)	舟型立像		89 × 33	(台座正) 施主 弥四郎	(中央部割れ目・舟型下部欠落)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
15	馬頭観音	舟型立像	明治25(一八九二)	75×39	(正) 明治廿五年 七月十日 鈴木氏
14	馬頭観音	自然石	明治26(一八九三)	92×59	(正) 馬頭觀世音菩薩 明治廿六年癸巳年 正月十日 鳥澤氏
13-2	水神塔	自然石	昭和14(一九三九)	52×42	(正) 水神 昭和十四年建之
13-1	諸神(權荷神)	祠		62×37	
12	唯念名号塔	自然石	弘化2(一八四五)	133×85	(正) 南無阿弥佉佛 唯念(花押) (背) 弘化二乙巳年四月八日 施主當村 植松安右衛門
11-28	薬師如来	舟型立像	明治42(一九〇九)	33×17	(正) 薬師如来 (背) 明治四十二年十二月立 小泉村石殿 (石脇不動堂内)
11-27	観音菩薩	舟型座像	明治42(一九〇九)	33×17	(正) 観音菩薩 (背) 明治四十二年十二月立 小泉村石殿 (石脇不動堂内)
11-26	庚申塔	舟型立像		39×21	(二猿浮彫/石脇不動堂内)
11-25	力石	自然石		30×62	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文	(備考)
16-1	碑(子育地藏由来)	板石	昭和57(一九八二)	105×69	別記10(26頁)	
16-2	石造物(線香立)	箱型		41×52	(左)植松氏 初太郎	(舟型一部欠落)
16-3	地藏菩薩	舟型立像		54×46		(頭部補修)
16-4	地藏菩薩	丸彫座像		56×39		(頭部補修)
16-5	地藏菩薩	丸彫座像	享保11(一七二六)	101×55	(背)享和二年 〇〇 弥右衛門 (台座正) 天下泰平 國土安全 結縁之輩 諸願成就 (台座右) 享保十一年 三月吉日 駿州石脇 願主全提 (台座右) 従佐野隈 御殿勤月 参彫石干 此地感尊 (上下別)	
16-6	地藏菩薩	丸彫座像		51×47		(頭部補修)

別記1 文学碑(歌碑)

(正) より來り うすれてきゆる みな月の

雲たえまなし 富士の山べに 牧水

(背) 平成三年十月吉日建立 裾野市 裾野市文化協会

台石寄贈 裾野市葛山 山水園 勝又重博

石工 長泉町納米里 吉川石材店 吉川正嗣

別記2 碑(石脇地名由来碑)

(正) 石脇(地名)之由来 地名辞典に駿河湾に注ぐ木瀬川

(黄瀬)の中流に位置するは「ユルギ石に由来する」

と駿河記にあり、深良村和讃に七石七木の名所として

語り継がれる内の一つにユルギ石が有り(約三トン)

不思議な事に子供の両手にて動いた由、その奇石の脇

の部落で有る事から石脇という地名が付けられた様で

ある。戦後護岸工事まで石脇字二俣西角の小川の上側に実在せり由、由来起源呼称判明せし為刻み残す。

平成八年七月吉日 奉納 植松春雄

別記3 石造物(軍功記念刻石)

(正) 今度於尾州明智郡合戰大勢ヲ討取首七ツ午刻ニ被懸御意無比類働之条神妙ニより依之駿州富士須流河郡おゐて大將御感有テ百町無相違宛行者也

建武二乙亥六月十五日 軍奉行 楠多門兵衛

橘正成(花押) 大場兵部太夫との

今度於信州佐久小形郡合戰ニ越後勢五百駿打披大將首三ツ来上刺ニ被掛御意無比類働之条神妙ニより依之三國谷相沢庄ニ而永五貫文并二時為褒美菊一文字刀相模守新身刀甲冑遣ス之事源信玄本心至ニより

永祿三庚申八月廿五日 軍奉行 山本道鬼

源晴義(花押) 筆者 横田備中 大場若狹との

(右) 昭和十六年十一月吉日 大庭浩建之

別記4 順礼供養塔(西・横堂・坂・秩)

(正) □納 百卅三所觀世音菩薩 國國 横堂 關東 秩父

駿劔御厨内同行廿四人 願主 石園村 植松利兵衛

(右) □觀世音菩薩 植松五郎兵衛 大場半九郎妻

長田由左衛門内母 植松利兵衛妻 重阿道□信士

本一房清心信女

(左) 經曰 眞觀清淨觀 廣大智慧觀

(背) 元祿九年丙子霜月廿八日 悲觀乃慈觀 常願常瞻仰 眼密坊

別記5 順礼供養塔(西・横)

(正) 奉納西國横道三十三所觀世音

寛保三癸亥天 四月吉日

(右) 植松惣七郎父 同名喜兵衛 大庭甚右衛門父

同人母 同名半十郎母 石川園五兵衛

(左) 植松五右衛門 同名五郎兵衛 同名五郎兵衛妻

同名淺右衛門妻 同名清左衛門妻 同名又七郎妻

同人姪お志免

別記6 順礼供養塔(秩・坂・西・横堂)

(正) 奉供娘秩父坂東六十七ヶ所横堂三十三所西國三十三所

觀世音菩薩

(左) 正徳三癸巳天四月十一日 大場弥在門 同人妻

植松想在門 同人妻 前田弥平治

(背) 大場甚兵衛 同清二郎 前田宗平八妻 三在門

又十母 作五兵右母 市在門

(右) 爲現當二世安樂也 同傳兵衛 同淺右門母

植松五右門 同又七母 同甚六

別記7 庚申塔

(正) 奉造立庚申供養石塔爲現當二世也

願主 敬白

(左) 佛言我哀愍汝等諸天人民甚於父母念于今我於此世間作

佛降化五惡消除五痛絕滅五燒以善改惡拔生死之圈圖以

今月之結衆等催庚申一坐契諾配于現當二世之両益造立

一本之石塔而以擬成就円満之供養圖也

(右) 然者則檀主現世者保松華椿葉節子孫長繁昌當來者證法

性之常樂圖黃金一包之□□□□□□若尔□一見之輩類

信圖□國圖餘味同仰利生之梵風者也爰以東海道七ヶ國

之内 本願人 植松五郎左右門

(背) 駿河國駿河郡鮎澤莊石脇村之善男与圖因圖諸行無常

是生滅法生滅々已寂滅爲樂唱者十惡五逆滅入一法□無

□善也 乃古法刃 自他平等

干時 寛文十年庚戌九月六日 本願人合也人覺

別記8 念佛供養塔

(正) 念佛供養塔

(右) 寛政元酉稔 弥四良母 弥平治母 弥兵衛

(左) 五月日 水右衛門 甚左衛門 利右衛門

(台座正) 権左衛門内 市左衛門母 茂左衛門母

久右衛門内 甚六母 文左衛門母 権左衛門内

甚右衛門母 六右衛門母 平左衛門 弥左衛門

角左衛門内 孫八

(台座左) 弥左衛門母 藤左衛門 宇兵衛母

(台座右) 園右衛門内 徳右衛門内 十内 平七母

別記9 碑(平和之碑)

(正) 平和之碑

(背) 石脇戦没者 大庭孝四八四番地

鳥沢正太郎三二二番地 杉山嘉市郎二六七番地

杉山友秋二四四番地 原一雄二五五番地

鳥沢源吾一三〇番地 渡辺保七一番地

日露戦争以来天王様に区民相集い共に武運長久を祈願

し出征して悲運にも一命を亡くした戦没者の英霊の功

績をたたえお不動尊の聖域に平和の碑を建立する

建立 平成五年一月吉日

植松春雄 原辰之助 晩馬書

別記10 碑(子育地蔵由来)

(正) 子育地蔵 童らよ育て元気に南無地蔵

子育の地蔵の蔭の雨宿り 雲足速し夕立の空

七十五翁 植松蓮峯

地蔵会の証打ちにつ無心なる

子育の由来も深くまつり来て

いよゝあらたかにおわしますなり 大庭大樹

昭和五十七年八月二十三日 石脇老人クラブ建之

佐野地区



佐野地区



1-2 庚申塔



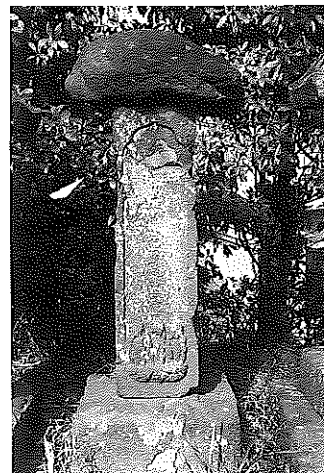
1-1 榎立



1-6 石灯籠



1-4 庚申塔



1-3 庚申塔



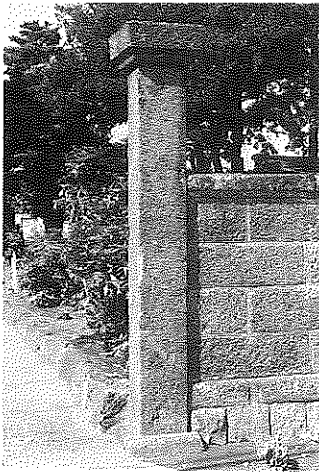
2 道祖神



1-5 庚申塔



3 蓮光寺



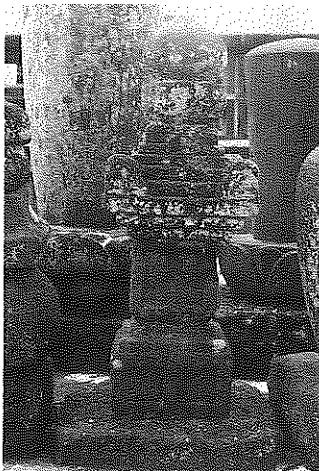
3-3 寺院標石



3-2 寺院標石



3-1 万靈塔



3-6 宝篋印塔



3-5 宝篋印塔



3-4 名号塔



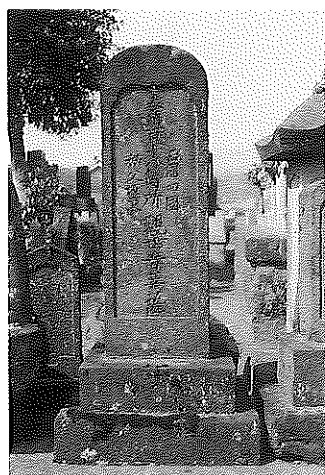
3-9 五輪塔



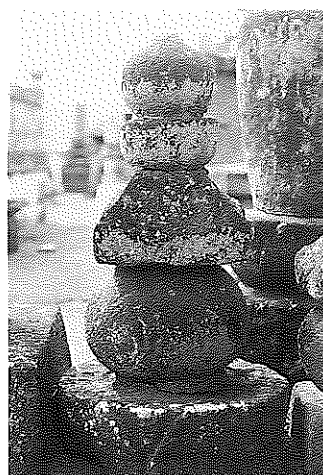
3-8 五輪塔



3-7 五輪塔



3-12 順礼、順拝供養塔
(西・秩・坂・四)



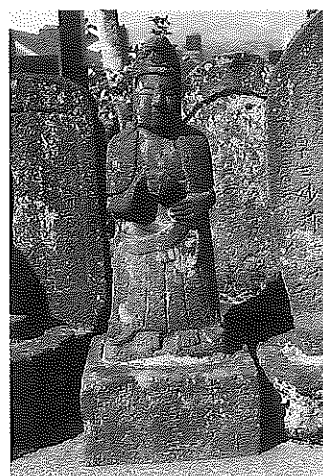
3-11 五輪塔



3-10 五輪塔



3-15 地藏菩薩



3-14 順礼供養塔(横堂)



3-13 順礼供養塔(横道)



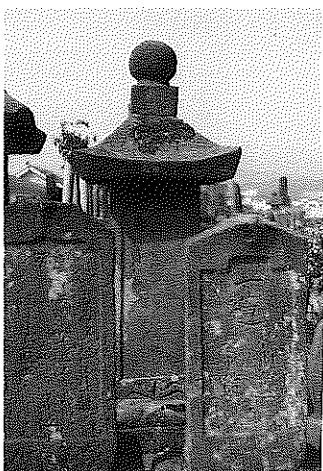
3-18 順礼供養塔 (秩・西・横道)



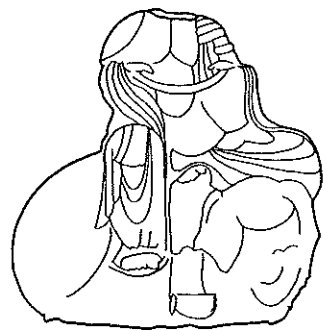
3-17 如意輪観音



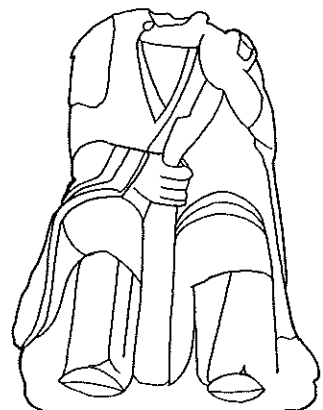
3-16 順礼供養塔



3-21 順礼供養塔 (西・坂・秩)



3-20 普賢菩薩



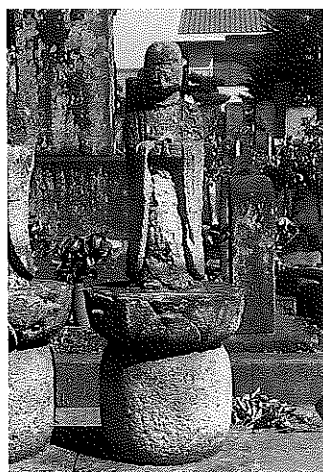
3-19 石造物 (不明)



3-23 順礼供養塔 (横道・秩)



3-22 順礼供養塔 (西・横堂・坂・秩)



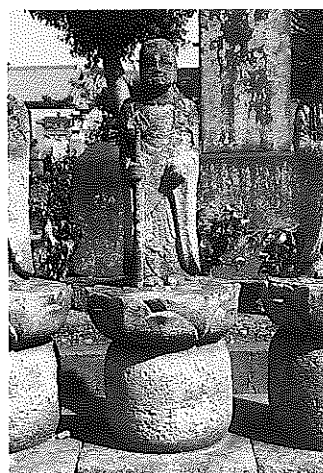
3-24 地藏菩薩（六地藏）



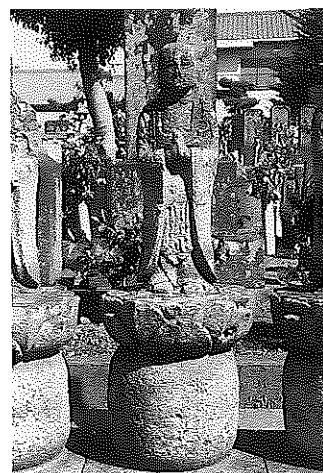
3 蓮光寺境内



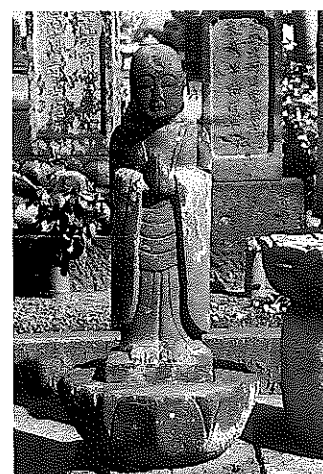
3-27 地藏菩薩（六地藏）



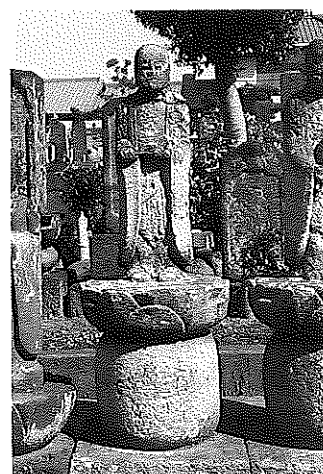
3-26 地藏菩薩（六地藏）



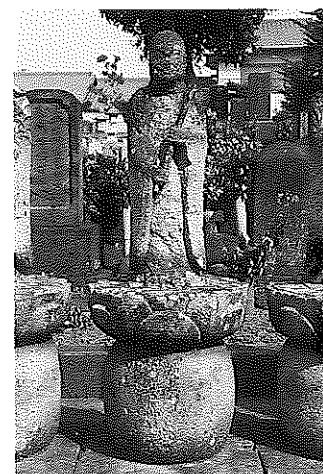
3-25 地藏菩薩（六地藏）



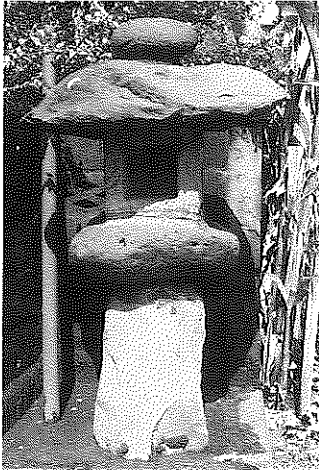
3-30 地藏菩薩



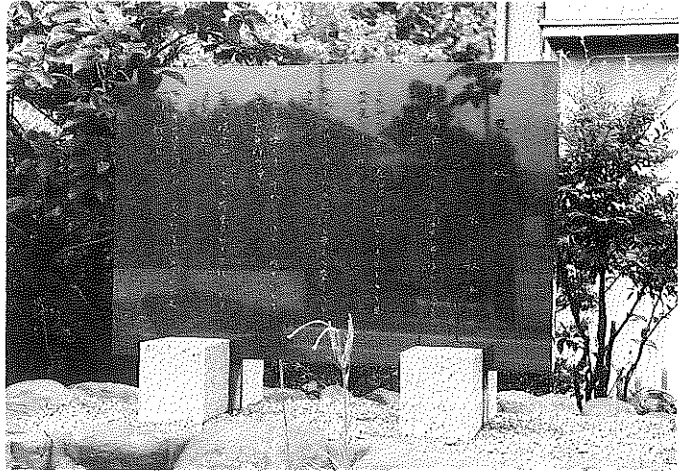
3-29 地藏菩薩（六地藏）



3-28 地藏菩薩（六地藏）



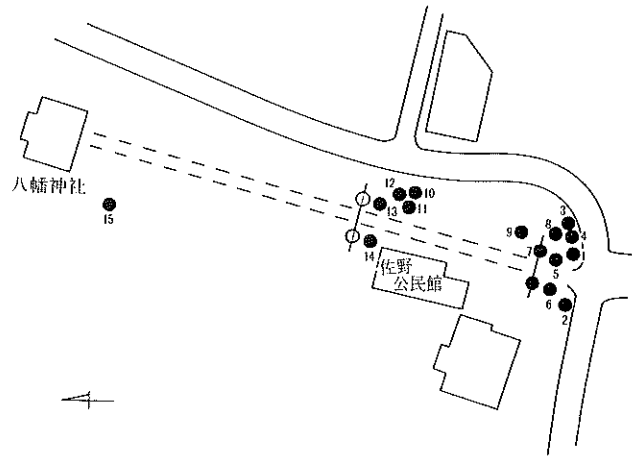
5 石灯笼



4 文学碑（歌碑）



6-1 碑（納燈碑）



6 八幡神社



6-4 道祖神



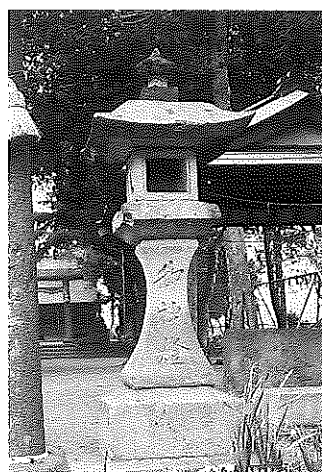
6-3 道祖神



6-2 神社標石



6-7 鳥居



6-5 石灯笼



6-8 幟立



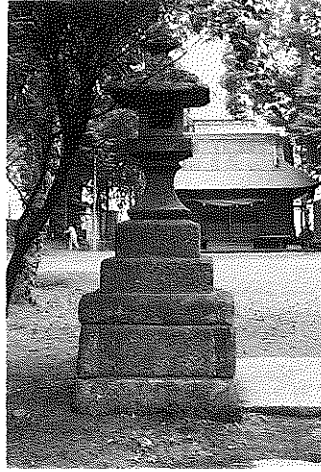
6-6 石灯笼



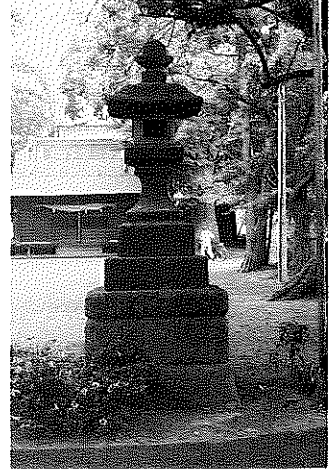
6-9 手洗石



6-15 石灯笼



6-14 石灯笼



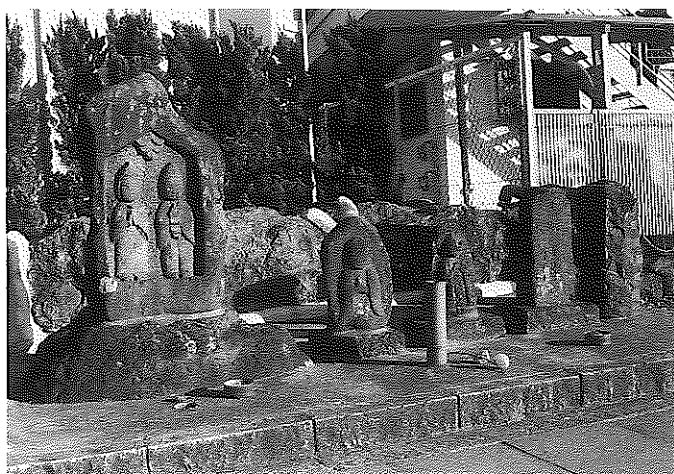
6-13 石灯笼



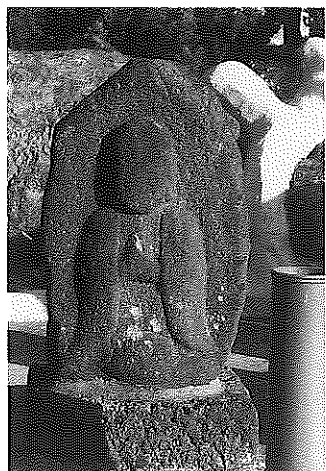
7-2 馬頭観音



7-1 石灯笼



8 佐野406



8-3 道祖神



8-2 馬頭観音



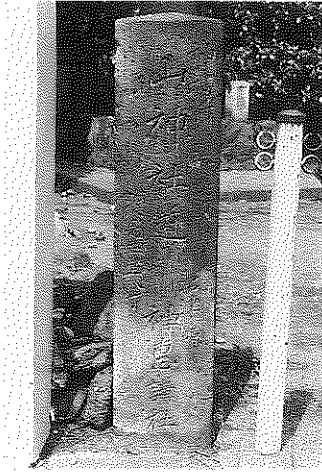
8-1 馬頭観音



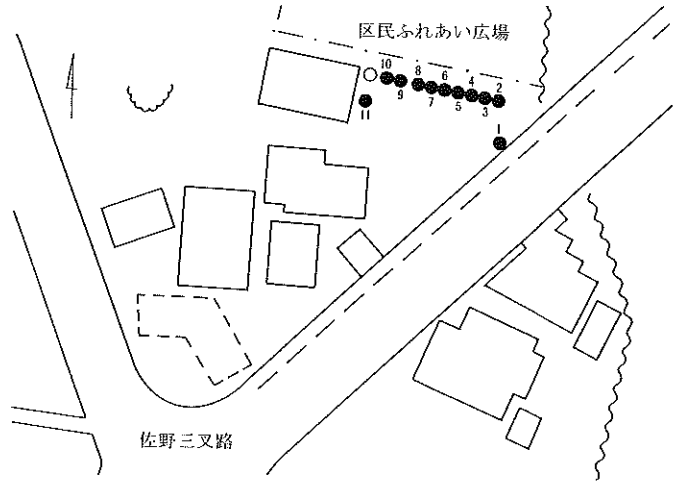
8-5 幟立



8-4 道祖神



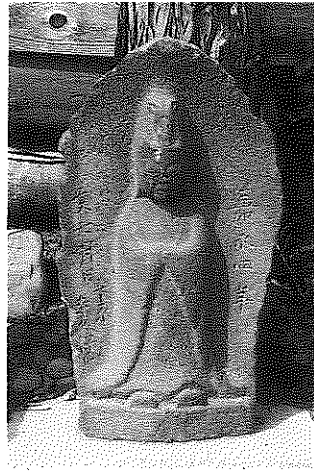
9-1 道標



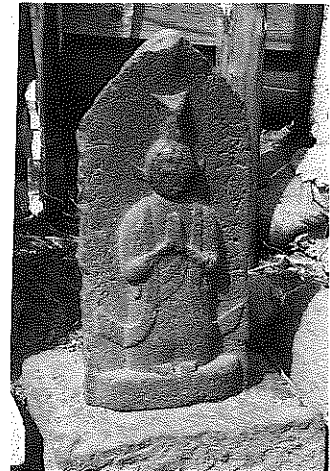
9 佐野区民ふれあい広場



9-4 馬頭観音



9-3 馬頭観音



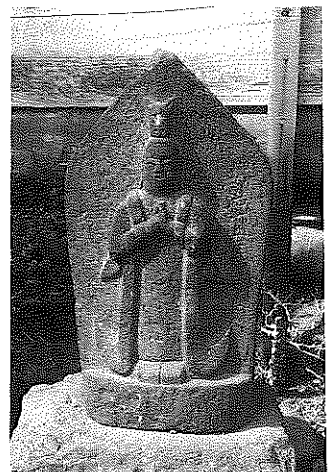
9-2 馬頭観音



9-7 馬頭観音



9-6 馬頭観音 (道標)



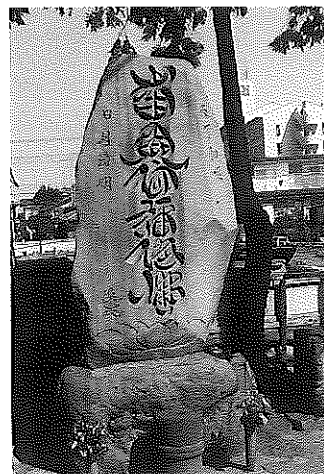
9-5 馬頭観音



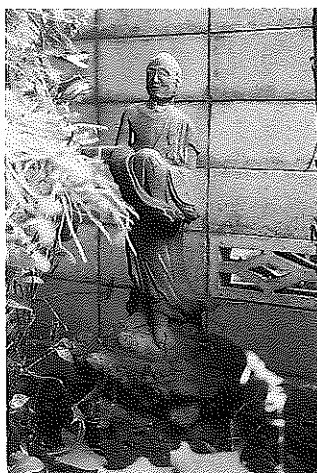
9-10 道祖神



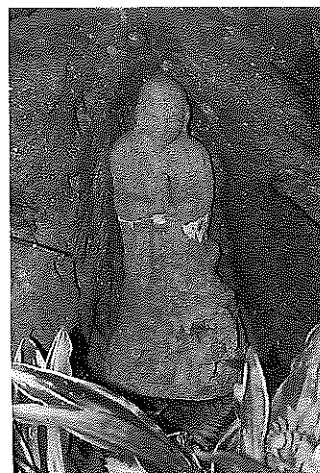
9-9 道祖神



9-8 唯念名号塔



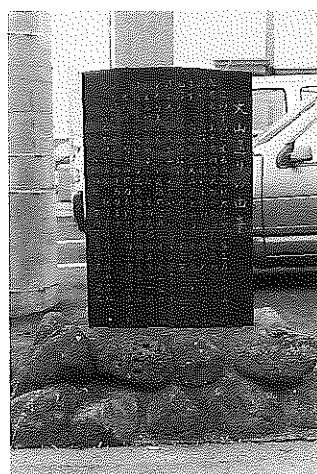
10-3 釈迦牟尼像



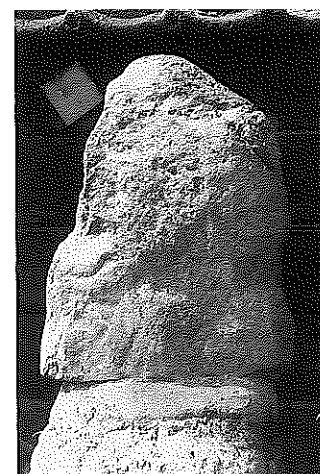
10-1 地藏菩薩



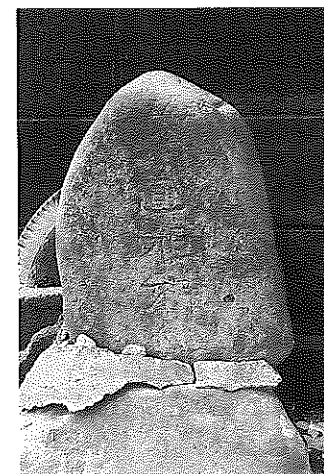
9-11 碑（戦歿者供養塔）



12 碑（大山通りの由来）



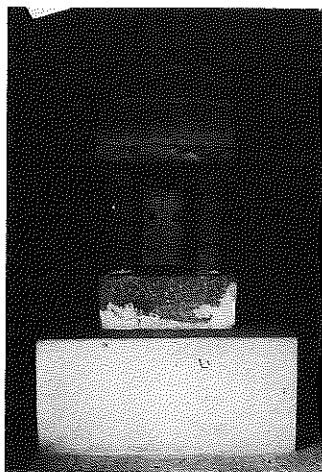
11-2 道祖神



11-1 道祖神



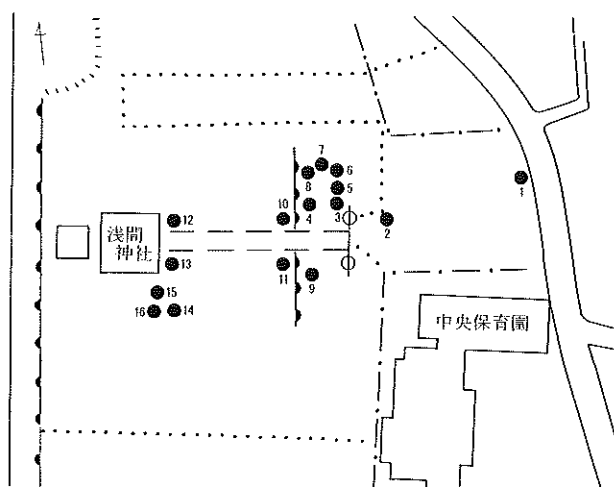
14 庚申塔



13-2 山の神塔（石祠）



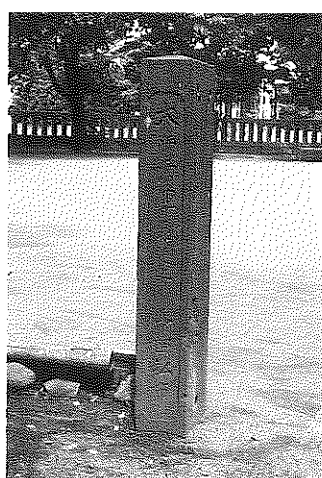
13-1 道祖神



15 浅間神社



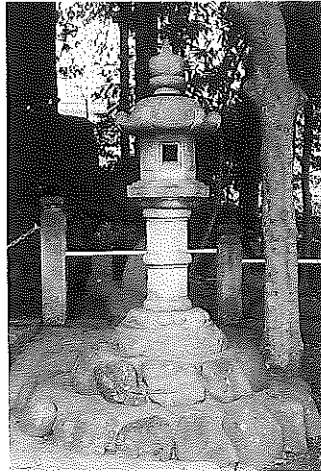
15-5 碑（町制十周年記念）



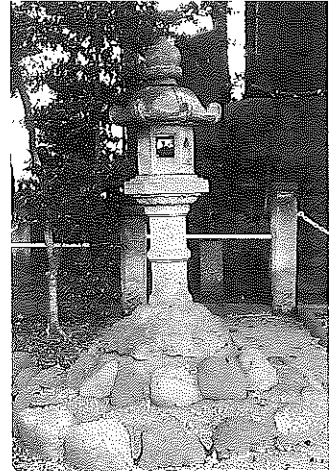
15-2 幟立



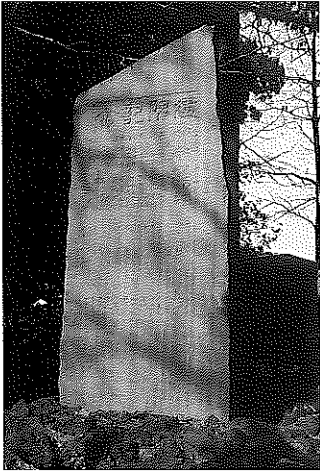
15-1 神社標石



15-4 石灯笼



15-3 石灯笼



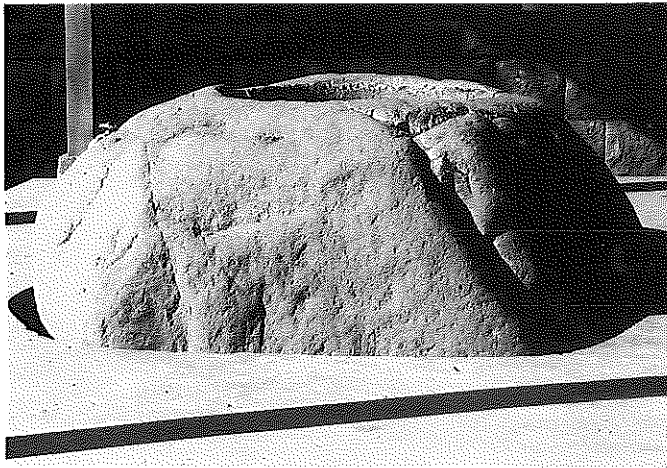
15-8 碑 (建碑記念)



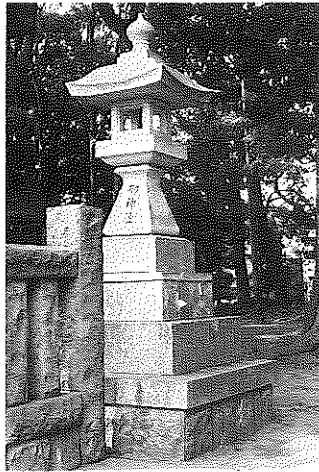
15-7 碑 (忠魂碑)



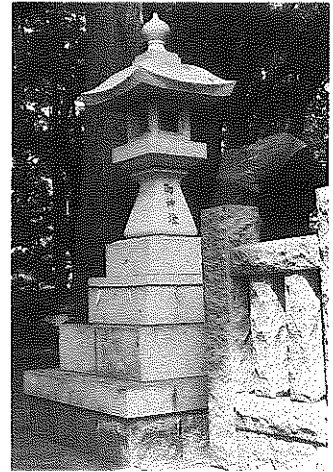
15-6 碑 (戦歿者碑)



15-9 手洗石



15-11 石灯笼



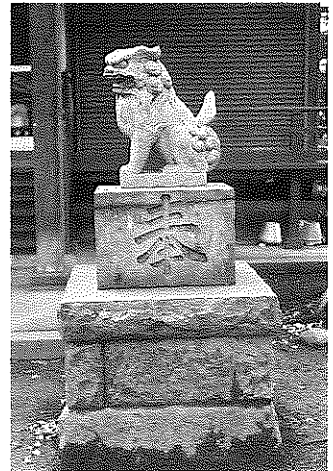
15-10 石灯笼



15-14 石灯笼



15-13 狛犬



15-12 狛犬



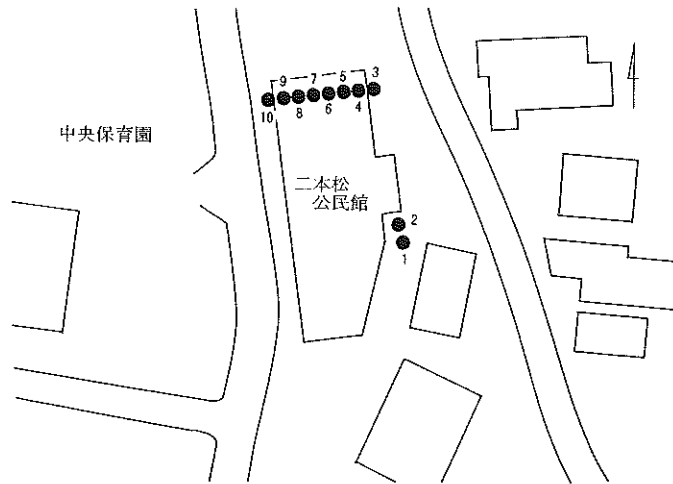
15-16 弁財天



15-15 手洗石



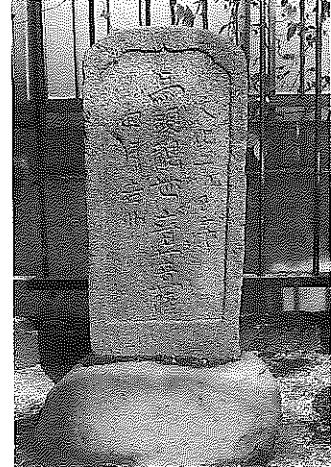
16-1 馬頭観音



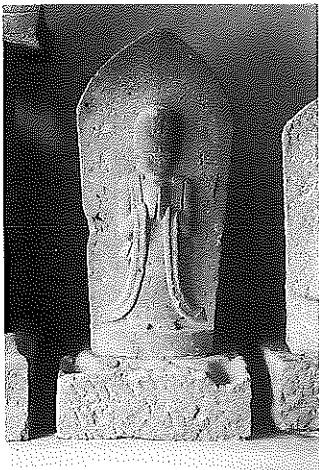
16 二本松公民館



16 二本松公民館内



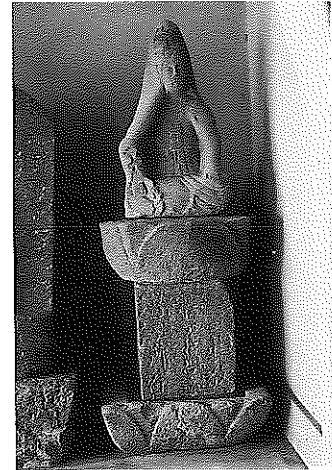
16-2 馬頭観音



16-5 馬頭観音



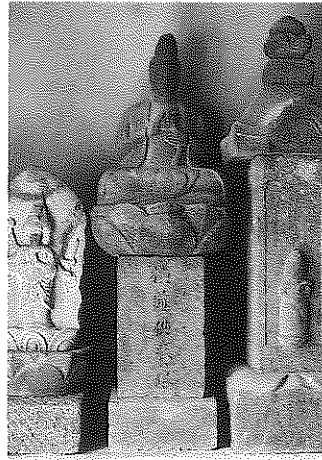
16-4 順礼供養塔 (横)



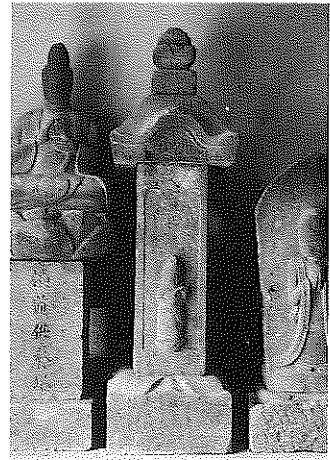
16-3 順礼供養塔 (横堂)



16-8 馬頭観音



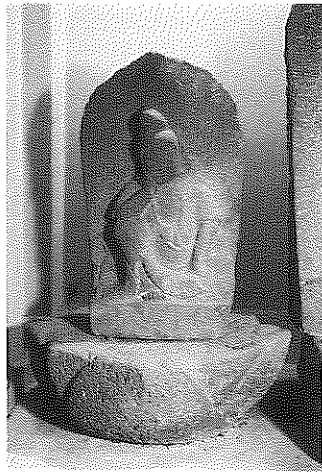
16-7 順礼供养塔(横)



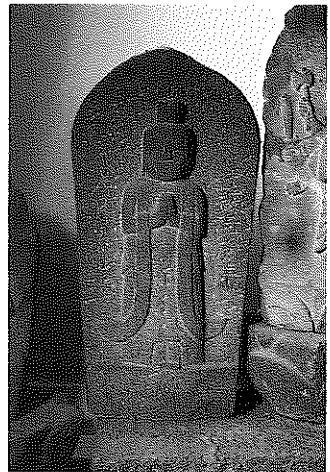
16-6 名号塔



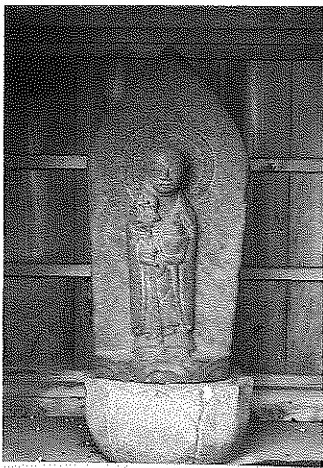
17 馬頭観音



16-10 如意輪観音



16-9 馬頭観音



21 地蔵菩薩



20 廻国塔



19 馬頭観音



22-1 石造物（拜門）



22-2 手洗石



22-7 不動明王



22-4 子待塔（第六天）



22-3 石灯籠

佐野地区石造物一覽表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
3-2	寺院標石	角柱	昭和45 (一九七〇)	214 × 60	(正) 捨聖一遍上人史蹟之地 時宗蓮光寺 (背) 昭和四十五年五月 杉山佐一建之
3-1	万靈塔	自然石		296 × 131	(正) ○ 萬靈塔
2	道祖神 (双体)	立像 笠付、技		124 × 101	(頭部欠落)
1-6	石灯籠	灯籠	天明4 (一七八四)	118 × 46	(正) 奉納御寶前 (右) 天明四甲辰年 (左) 十一月日 佐野邑中 (中台・火袋部欠落)
1-5	庚申塔	自然石	寛政12 (一八〇〇)	107 × 102	(正) 庚申供養塔 寛政十二庚申年 四月日 佐野村 講中
1-4	庚申塔	角柱 笠唐破風	享保1 (一七一六)	146 × 52	(正) ○ 奉造立庚申之供養成就所 (右) 享保元丙申天九月吉日 (左) 駿州駿東郡佐野村講中卅一人 (一部欠落 三猿浮彫)
1-3	庚申塔	角柱	延宝8 (一六八〇)	131 × 52	別記2 (61頁) (宝珠・笠部欠落・風化 三猿浮彫)
1-2	庚申塔	角柱 笠唐破風	元禄8 (一六九五)	143 × 63	別記1 (61頁) (一部欠落・風化 三猿浮彫)
1-1	巖立			85 × 26	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
3-11	五輪塔			66 × 35	(水輪東) 𠄎 (南) 𠄎 (西) 𠄎 (北) 𠄎
3-10	五輪塔			58 × 22	(水輪東) 𠄎 (南) 𠄎 (西) 𠄎 (北) 𠄎
3-9	五輪塔			62 × 22	(水輪東) 𠄎 (南) 𠄎 (西) 𠄎 (北) 𠄎
3-8	五輪塔			57 × 22	
3-7	五輪塔			62 × 24	(水輪東) 𠄎 (南) 𠄎 (西) 𠄎 (北) 𠄎
3-6	宝篋印塔			69 × 33	
3-5	宝篋印塔			75 × 29	(塔身正) 𠄎 (右) 𠄎 (左) 𠄎 (背) 𠄎 (相輪上部欠落)
3-4	名号塔	自然石	明治16 (一八八三)	261 × 145	別記3 (61頁)
3-3	寺院標石	角柱	大正口	290 × 66	(右柱背) 寄付主 服部徳二郎 (左柱背) 大正口年九月建立 (一部欠落)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
3-12	順礼・順拝供養塔 (西・秩・坂・四)	櫛型	寛保3(一七四三)	117×57	(正) 奉納西國四國秩父坂東百八十八箇所觀世音菩薩 (右) 寛保三癸亥天十月吉日 (左) 駿州佐野村 植松平八郎 敬白
3-13	順礼供養塔(横堂)	丸彫座像	享保10(一七二五)	96×52	(基礎) 奉供養横堂 享保十乙巳□ 九月吉祥□ 同行佐野□ 同新□ (台座下部埋没にて判読不能/如意輪)
3-14	順礼供養塔(横堂)	丸彫立像	正徳1(一七一一)	71×30	別記4(62頁) (台座下部埋没にて判読不能/聖観音)
3-15	地藏菩薩	丸彫立像		68×37	
3-16	順礼供養塔	浮彫座像		83×40	(正) □□三所 □□八月 (光背上部欠落・風化/如意輪) (一部欠落)
3-17	如意輪観音	丸彫座像		85×40	
3-18	順礼供養塔 (秩・西・横)	櫛型	寛政5(一七九三)	86×45	別記5(62頁) (台座左右に姓名あり)
3-19	石造物(不明)	丸彫座像		26×23	(頭部欠落)
3-20	普賢菩薩	丸彫座像		27×25	(頭部欠落)

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文	(備考)
3-28	地藏菩薩(六地藏)	丸彫立像		103 × 39	(台座) 施主 石脇村中	(頸部補修)
3-27	地藏菩薩(六地藏)	丸彫立像		102 × 40	(台座) 施主 當村中	(頸部補修)
3-26	地藏菩薩(六地藏)	丸彫立像		102 × 39	(台座) 施主 中宿□七 下宿平七 下宿□□	(頸部補修)
3-25	地藏菩薩(六地藏)	丸彫立像		102 × 39	(台座) 施主 當村中	(頸部補修)
3-24	地藏菩薩(六地藏)	丸彫立像		100 × 40	(台座) 施主 久根村中	(頸部補修)
3-23	順礼供養塔(横・秩)	角柱	宝曆13(一七六三)	57 × 30	(正) 奉供養横道秩父 宝曆十三癸未年 十月吉日 (右) 施主當村 (左) 同行貳拾四人	
3-22	順礼供養塔 (西・横堂・坂・秩)	笠唐破風 角柱	享保3(一七一八)	131 × 63	別記6(62頁)	(台座姓名欠落)
3-21	順礼供養塔 (西・坂・秩)	笠付角柱	元禄16(一七〇三)	125 × 47	(正) 奉供養西國坂東秩父百ヶ所觀世音菩薩 敬白 (右) 駿州御厨之内佐野村願主 植松市兵衛 植松権右衛門 (左) 千時元禄十八年癸未霜月朔日 荻田孫兵衛 鈴木加兵衛	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
6-5	石灯籠	灯籠	文政8(一八二五)	205 × 86	(正)御神燈 (背)文政八乙酉年 二月 施主 當村 山路幸藏 (火袋補修)
6-4	道祖神(双体)	立くり像 拔		87 × 69	
6-3	道祖神(双体)	立くり像 拔	寛保2(一七四二)	107 × 91	(右)寛保 壬戌年 (頭部欠落)
6-2	神社標石	角柱	明治40(一九〇七)	321 × 104	別記8(62頁)
6-1	碑(納燈碑)	自然石	大正7(一九一八)	131 × 74	(正)納燈 大正七年ヨリ 市川清龍堂
5	石灯籠	灯籠		136 × 90	(火袋補修)
4	文学碑(歌碑)	板石	昭和55(一九八〇)	185 × 280	別記7(62頁)
3-30	地藏菩薩	丸彫立像		80 × 35	(頸部補修)
3-29	地藏菩薩(六地藏)	丸彫立像	文化4(一八〇七)	102 × 39	(台座)文化四卯年二月日 施主 當村中 (頸部補修)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
6-13	石灯籠	灯籠		222 × 92	(正) 献燈 (火袋補修)
6-12	鳥居(部分)			44 × 100	(龜服)
6-11	石造物(不明)	角柱		72 × 41	(二面くり抜)
6-10	石造物(不明)	角柱		35 × 22	(下部土中埋没・二面くり抜)
6-9	手洗石	自然石	昭和3 (一九二八)	71 × 194	(右) 奉献 昭和三戊辰秋 上杉貞治郎
6-8	幟立		大正4 (一九一五)	171 × 31	(左) 奉献 大正四乙卯年秋 杉山勘作
6-7	鳥居	神明型	大正6 (一九一七)	321 × 389	(左柱背) 奉 大正三四年戦捷従軍士 (右柱背) 納 大正六年一月十五日建之 大庭健逸 星野國俊 古谷米作 川口可夫 林孝三郎 杉山松太郎 鈴木一
6-6	石灯籠	灯籠	文政8 (一八二五)	197 × 87	(正) 御神燈 (背) 文政八乙酉年 二月 施主 當村 山路幸蔵 (火袋補修)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
8-15	石灯籠	灯籠	天明6(一七八六)	164×61	(正)奉納 御神前 (右)天明六丙午六月吉日 (左)佐野村中安全 (火袋補修)
7-1	石灯籠	灯籠	万延1(一八六〇)	57×28	(正)万延元申年 八月吉日 杉山藤七 (舟型下部欠落)
8-1	馬頭観音	楡型	天保3(一八三二)	61×40	(正)馬頭観世音菩薩 天保三壬辰年 [] 吉祥日 (舟型一部欠落・風化)
8-2	馬頭観音	浮彫立像	明治10(一八七七)	51×37	(正)明治十年 [] 二月 []
8-3	道祖神(单体)	浮彫座像		55×31	
8-4	道祖神(双体)	立くり抜像		115×110	
8-5	幟立			65×26	(一對)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
9-1	道標	山型角柱	明治10(一八七七)	104×24	(正) 神場村 山神社道 従是三里八丁 沼津驛 神惠講社 (左) 明治十五年十一月吉日
9-2	馬頭観音	舟型立像	文政10(一八二七)	68×35	(正) 文政十丁亥年 二月六日 池谷氏 (舟型一部欠落)
9-3	馬頭観音	舟型立像	嘉永4(一八五二)	57×31	(正) 嘉永四年 亥七月日 下原 寺久保氏
9-4	馬頭観音	舟型立像	寛政□	70×24	(正) 寛政□年 □□八日 □□清八 (中央部割れ目補修)
9-5	馬頭観音	舟型立像	明治15(一八八二)	72×36	(正) 明治十五年四月日 施主 市川保平
9-6	馬頭観音(道標)	櫛型 り抜立像	宝曆9(一七五九)	65×39	(右) 右ハあしがら古へ すばしり道 (左) 左ハすやま道 宝曆九己卯八月吉日 願主 古屋仁平衛
9-7	馬頭観音	自然石	昭和12(一九三七)	53×52	(正) 馬頭観世音 昭和十二年八月三日 鈴木勉美建之
9-8	唯念名号塔	自然石	安政4(一八五七)	285×129	別記9(63頁)
9-9	道祖神(单体)	浮彫立像		54×40	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
10-7	宝篋印塔(部分)			40 × 22	(残存 相輪・笠部)
10-6	五輪塔(部分)			13 × 22	(残存 水輪部 一部欠落)
10-5	五輪塔(部分)			26 × 22	(残存 火輪・水輪部)
10-4	宝篋印塔(部分)			25 × 23	(残存 基礎部)
10-3	釈迦牟尼像	丸彫立像		107 × 48	(頭部補修)
10-2	宝篋印塔(部分)			34 × 29	(残存 基礎・基礎部)
10-1	地藏菩薩	丸彫立像		42 × 17	(中央部割れ目補修)
9-11	碑(戦歿者供養塔)	自然石	昭和26 (一九五二)	200 × 148	(正) 戦歿者供養塔 佐野石脇念佛講建之 昭和廿六年九月廿四日
9-10	道祖神(単体)	舟型立像		49 × 37	(一部欠落)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
10-8	宝篋印塔(部分)			20×23	(残存 笠部)
11-1	道祖神	自然石		67×60	(正) 道祖神
11-2	道祖神	自然石		91×41	(台座コンクリート補修)
12	碑(大山通りの由来)	板石	昭和54(一九七九)	119×110	別記10(63頁)
13-1	道祖神(双体)	立くり像		107×86	(頭部風化)
13-2	山の神塔(石祠)	祠		107×80	
14	庚申塔	山型角柱	元文5(一七四〇)	113×67	(正) 青面金剛 (右) 維持元文五天庚申季秋吉且 (左) 施主 鈴木利兵衛 富岡忠右衛門 同小左衛門 公権三郎 湯山庄三郎 飯塚長右衛門
15-1	神社標石	角柱	大正9(一九二〇)	331×108	(正) 神饌幣帛料 供進御指定 村社淺間神社 (背) 爲崇敬五十年記念 大正九年十月二十日 奉納 氏子 市川源太郎 市川種次郎建之 一木孝謹書 石嘉 石政刻

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
15-10	石灯籠	灯籠	昭和58 (一九八三)	285 × 136	(正) 御神燈 (背) 奉納 昭和五十八年 十月吉日建立 中西保男 服部眞臣
15-9	手洗石	自然石		70 × 215	
15-8	碑(建碑記念)	板石		229 × 100	別記13 (64頁)
15-7	碑(忠魂碑)	板石		448 × 136	別記12 (63頁)
15-6	碑(戦歿者碑)	板石	昭和47 (一九七二)	212 × 122	別記11 (63頁)
15-5	碑(町制十周年記念)	自然石	昭和37 (一九六二)	59 × 36	(正) 町制十周年記念 裾野町 (背) 昭和三十七年四月八日
15-4	石灯籠	灯籠	昭和36 (一九六一)	202 × 159	(正) 常燈 (背) 裾野町西東遺族会 昭和三十六年四月建之 (宝珠欠落)
15-3	石灯籠	灯籠	昭和35 (一九六〇)	206 × 159	(正) 常燈 (背) 裾野町西東遺族会 昭和三十五年四月建立
15-2	幟立		大正3 (一九一四)	156 × 44	(左) 大正三年十月建之 中西松市

16 2	16 1	15 16	15 15	15 14	15 13	15 12	15 11	番号
馬頭觀音	馬頭觀音	弁財天	手洗石	石灯籠	狛犬	狛犬	石灯籠	種類
櫛 型	自然石	自然石	自然石	灯 籠			灯 籠	形状
文化2 (二八〇五)	明治31 (二八九八)			延享3 (二七四六)	昭和15 (一九四〇)		昭和58 (一九八三)	造立年
72 × 41	107 × 78	168 × 150	27 × 62	141 × 49	191 × 100	185 × 100	285 × 136	法量 (cm)
(正) 馬頭觀世音菩薩 文化二乙丑年 四月吉日	(正) 南無馬頭觀世音菩薩 (背) 明治三十一年七月十日台灣土匪亂伐之際族 犬安庄戰沒依爰吊其亡靈第三師團騎兵上等兵中西新平乘馬 露菊	(正) 辨財天		(背) 奉納淺間宮 駿州二本松氏子中 延享三丙寅八月 (宝珠・笠一部欠落 火袋補修)	(背) 皇紀二千六百年記念 二月十一日 (正) 納	(背) 為金婚 奉納主 山川爲吉 山下政衛刻 (正) 奉	(背) 奉納 昭和五十八年 十月吉日建立 中川精一 (正) 御神燈	銘 文 (備 考)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
16 10	如意輪観音	舟型座像		63 × 45	
16 9	馬頭観音	舟型立像	寛政2 (一七九〇)	64 × 31	(正) 寛政二庚戌年 九月吉日 (二本松公民館内)
16 8	馬頭観音	浮彫立像		80 × 34	(二本松公民館内)
16 7	順礼供養塔(横)	丸彫座像	宝曆6 (一七五六)	145 × 54	別記15 (65頁) (上下別/聖観音/二本松公民館内)
16 6	名号塔	笠唐破風 角柱	元禄11 (一六九八)	150 × 45	別記14 (65頁) (聖観音/二本松公民館内)
16 5	馬頭観音	舟型立像	文化4 (一八〇七)	104 × 49	(正) 因化四丁卯年 三月吉日 (二本松公民館内)
16 4	順礼供養塔(横)	舟型立像	延享3 (一七四六)	91 × 43	(正) 奉供養横道三十三所 延享三丙寅八月 秋山浅右衛門 同惣左衛門妻 中西おさん 伊藤藤左衛門 同おせん (聖観音/二本松公民館内)
16 3	順礼供養塔(横堂)	丸彫座像	正徳2 (一七一一)	103 × 41	(正) 奉供養横堂三十三所 敬白 (左) 正徳二壬辰歳 四月吉日 (右) 為二世安樂也 田三人 男女同行 (如意輪/二本松公民館内)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
17	馬頭観音	自然石	昭和2(一九二七)	87 × 31	(正) うた うい さき しゐ ねそ かむ きい 頭観世音 (背) 昭和二年六月 山本富之助 (残存 竿・基礎部)
18	秋葉山供養塔(部分)	自然石		71 × 55	
19	馬頭観音	自然石	昭和2(一九二七)	113 × 57	(正) 馬頭観世音菩薩 昭和二年五月十七日 二本松 根上良吉
20	廻国塔	櫛型	安永2(一七七三)	156 × 75	(正) 奉納廻國供養佛 天下 泰平 施主 秀善 (右) 安永二癸巳天 (左) 十一月吉日
21	地藏菩薩	舟型立像		91 × 38	
22-1	石造物(拝門)	門型		231 × 253	
22-2	手洗石	自然石		52 × 107	
22-3	石灯籠	灯籠	寛政1(二七八九)	157 × 49	(正) 奉納御寶前 (右) 寛政元年 酉八月日 (左) 施主 若者中
22-4	子待塔(第六天)	櫛型		104 × 91	(正) 第六天

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文 (備考)
22-7	不動明王	自然石	明和1(二七六四)	149×110	(正) 不動明王 明和元年申申仲秋初三日 □□□ 二本松中 (不動尊堂内)
22-6	熾立			37×29	五德□□為也矣□以困月之結茨等□□申一座契諾配于現當二世兩益造立一本之石塔而以□□就円滿之供養然則□主現世者保松華椿葉齡子孫長繁昌
22-5	熾立			62×29	(正) □□尊 (上部欠落)

別記1 庚申塔

(正) ○ ○ 奉建立庚申供養之石塔為現當二世兩益 願主

敬白

(左) 佛言我哀愍以等諸天人民甚於父母念于今我於此世間作佛圖化五惡消除五痛絕滅五燒以善惡惡拔生死之若令獲五德得天為之圖矣

(右) 六經曰 常以法音覺諸世間光明普照天量佛土一切世界

六種震動惣圖魔界動魔□殿衆魔穢怖莫不此伏

駿劔駿河之郡小泉庄 佐野村 住人等

于時元祿八年乙亥霜月十四日

別記3 名号塔

(正) 南無阿弥陀佛

印 明治十三年七月十八日寂 同十六年十月廿日

瀧澤山開基一蓮社向譽上人唯念老和上為大行者莊嚴淨

土立之 遊行五十八世佗悟上人 尊證書願

(台座) 念佛講中

別記2 庚申塔

(正) 奉圖 庚申供養之石塔為現當二世兩益

(左) 佛言□□□□□□□□□□天人□甚於父母念于今我於此世間圖

佛□□化五惡消除五圖□□□□□□以善惡惡拔生死之苦令獲

別記4 順礼供養塔（横堂）

（台座正）奉供養□堂三十三□觀世音菩薩□ 正徳元辛卯□

十一月十八日

（台座右）匣子四圍 杵山□□□□ 同内 横山□□□□ 母

杵山甚兵衛母 日吉六兵衛 同内方 杵山孫兵衛

同内方 日吉茂七

（台座左）古谷久右衛□内方 植松権右□□内方

長沢源□母

別記5 順礼供養塔（秩・西・横）

（正）横道西國秩父供養塔

（右）施主 佐野村

（左）寛政五丑年 七月吉日 世話人 平左衛門 安兵衛

（台座正）文藏 伝右衛門 常八 八五郎 九兵衛 加兵衛

惣左衛門 九左衛門 繁八 仁平 長左衛門

別記6 順礼供養塔（西・横堂・坂・秩）

（正）奉供養西國坂東横堂秩父觀世音菩薩

（右）享保三戊戌稔八月吉日 皿

（左）駿州駿東郡小泉庄御厨佐野村

（台座正）□塚庄右□□□□ 木九圍□□□□ 吉□□□□

鮎木元右□□□□ 星野源□□□□

別記7 文学碑（歌碑）

（正）麦の秋 若山牧水

麦の穂の風にゆれたつ音聞ゆ雀つばくら啼きしきるなかに

うちわたすこの麦畑のゆたかなるさまをし見れば夏たけにけり

熟麦のうれとほりたる色深し葉さへ莖さへうち染りつ

うれ麦の穂にすれすれにつばくらめまひをりて空に雲雀群れ啼く

刈麦を積みあふらせて荷車のひとつ行くなりこの野の路を

たち寄れば麦刈にけふ出で行きて留守てふ友が門の柿の花

（背）「麦の秋」は、牧水先生他界直前、此の地にての作。歌の中に友とある、秋灯・鈴木凌一、生前の交遊を懐かしみ、其の柿の木の傍に之を建つ

昭和五十五年四月 協賛 裾野市図書館短歌会

別記8 神社標石

（正）鎮座八幡神社

（右）明治三十七八年日露戦役従軍士 陸軍歩兵中尉従七位

勲六等 發起者 久保惠作 永田源十郎 長澤文治郎

星野榮作 杉山徳次郎 抽籤順 上杉義次郎

植松三與作 日吉瀧二郎 杉山佐吉 古屋豊吉

蘆川與吉 市川和二郎 同齊次 杉山清作 杉山善作

（左）明治四十年四月十五日建之

(背) 石工 久保平作

別記9 唯念名号塔

(正) 南無阿彌陀佛 天下和順 日月清明 唯念(花押)

(背) 安政四年丁巳二月吉日 念佛講中 佐野村 茶畑村

伊豆佐野村 公文名村 久根村 石脇村 千福村

大畑村 定編寺村 富沢村 一色村 納米里村

上玉狩村 伊豆鳶田村 萩ヶ久保村 麦塚村 平枳村

御宿村 葛山村 今里村 金沢村 上ヶ田村 神山村

岩波村 深良村 二ッ屋新田 村之世話人中

別記10 碑(大山通りの由来)

(正) 大山通りの由来

この東西に走る道路は大正十三年五月この土地の所有者である市川源太郎が私有地に私財を投じて道路橋梁を建設し当時の小泉村に寄附したものであります

市川家を大山屋と云う謂れは先代熊蔵が大山阿夫利神社の信仰厚く参詣すること百五十回余に及び人呼んで

大山翁と言い いつしか屋号が大山屋となりました

この道路の完成により大山通り大山橋と名付けられました
その後昭和五年十一月廿六日朝伊豆震災により橋の西南部が破損しました
その際地元有志の協力を得て国の災害復旧工事により修復されたものであります

昭和五十四年二月 裾野市佐野八九〇番地二

源太郎の孫 市川源策撰文 建之

別記11 碑(戦歿者碑)

(正) 戦歿者 米山木之助 竹内啓 市川定雄 市川撰次

加藤勇作 加藤實 池田武男 歌崎一 遠藤和市

大石鉄蔵 久保田武治 久保田文治 眞田憲吾

中西文平 水口政平 稲葉一男

(背) 昭和四十七年三月建之

別記12 碑(忠魂碑)

(正) 忠魂碑 元師子爵川村景明書

(背) 戦歿者 日露 土屋磯吉 杉山嘉一郎 菅沼一

西尾大吉 中西和十郎 岩田甚作 渡辺大宗

飯塚耕蔵 支那事変 鳥澤正太郎 杉山忠雄

杉山達雄 永田正五 浅倉一夫 石井正吾 田口峯雄

吉川兼吉 鈴木太三郎 齊藤正二 杉山繁雄

水口重秋 服部淑 永田一枝 服部義朗 服部一

徳田亨 梶滋直 高橋義兼 杉山房太郎 大東亜

星野藤太郎 中西三郎 関野健一 澤村三郎

大庭敏雄 渡辺俊雄 安藤正夫 鳥澤源吾 大庭孝

永田辰男 渡辺一男 米山大甫 土屋信俊 塩崎本作

鈴木吾一 二村緑 杉山喬 高橋芳雄 渡辺彰和

浅倉芳雄 水口三郎 廣瀬武雄 鈴木榮一 川口憲夫

杉本春雄 鈴木豊 渡辺豊 梶原定雄 水口静海

杉山勲 杉山喜久雄 岩田静雄 久保榮 大島良一

石井竹雄 渡辺彌作 細溝正一 角田米次 服部實三

別記13 碑(建碑記念)

(正) 建碑記念(分會長星野國俊 分會副會長長澤間助)

淺田重夫 柏木次男 中西高慶 服部輔弼 木内宏
柏木正男 日吉親則 米山忠雄 梶泰 市川貢
原木銀作 鈴木明 川口守江 大塚元照 市川昇
上杉一夫 二村頼武 大庭柳作 室伏計之
杉山富次郎 杉山廣作 渡辺浦次郎 石井重夫
杉山任司 角谷政直 梶開太郎 植松榮一郎
関野一利 鈴木留次郎 渡辺保 今関忠三 山川泰司
渡辺義信 杉山廣 中村緑郎 志田義雄 菊地銀次郎
植松茂 稲光夫 市川美義 渡辺當作 中川義朗
渡辺行雄 中西親雄 鈴木穰 原一雄 渡辺辰夫
飯塚良吉 渡辺二雄 大塚真平 富岡弘之 杉山菊雄
杉山實 佐野章 関野富男 長谷川種作 古見實
鈴木大正 渡辺英雄 土屋金吾 水口房雄 服部直
四宮卓藏 杉山眞吾 溝口森正 片山猛良
鹿山俊二郎 鈴木和 上杉大徳 杉山友秋 石橋剛三
長岡天産書

顧問渡邊伊三郎 村長渡邊孫三郎

建設委員 土屋儀三郎 市川齊次 高梨正吉

鳥澤三平 菅沼眞治郎 杉山高之 林孝三郎

渡邊三平 植松吾東 片山關太郎 渡邊忠吉

古谷米作 川口可夫 土屋丑藏 服部久作 伊東新平

星野角次郎 植松萬次郎 川口竹次郎 菅沼幾三郎

原光太郎 今關武雄 山川元三郎 渡邊龜次郎

贊助者 岩崎勲 服部銀作 服部正策 鳥澤由太郎

大庭幾太郎 渡邊波司 土屋富藏 土屋喜一

上杉貞治郎 植松三與作 持田與之助 鈴木榮太郎

杉山喜代二郎 杉山茂 杉山徳次郎 工事鞅掌會員

西島正名 渡邊與作 久保文太郎 柏木甚藏

勝又茂作 植松強 瀬戸淺次郎 井口庄作 溝口金作

森崎久作 鈴木一 富岡正作 渡邊嘉一 上藤不二雄

木内良平 星野仁作 酒井筆治 水口茂作 渡邊兼作

岡留太郎 田邊伊三郎 渡邊儀作 市川貞吉

星野常吉 市川治三郎 菅沼幸作 柏木喜市

大島平次郎 鈴木芳雄 中西健治 長谷川保作

渡邊寛一 久保和作 日吉辰男 鈴木時次郎

菅沼義根 永田弘枝 石津幸太郎 高橋榮一郎

田口松太郎 相澤多作 太庭喜義 鈴木龜次郎

杉山金太郎 吉岡正明 鈴木勝能 植松治作

杉山孝一郎 水口千太 久保隆 鈴木慶次郎

鈴木由次郎 服部安藏 田口源作 鈴木金作

鈴木孝作 今關勇 永島廣士 中西久雄 神尾重春

杉本新作 渡邊小三郎 渡邊多一 日吉房太郎

森島梧桐 市川作次郎 永田芳雄 吉岡通治

渡邊歳次 田口文作 山路武雄 杉山金吾 富岡伊作

渡邊喜太郎 大庭忠治 中西一郎 水口善藏

米山靜雄 森田源作 加藤主計 太田楠次郎

山崎小三郎 朝香光男 山本富之助

別記14 名号塔

(正) 南無阿弥佉佛 元禄十一年 戊寅十一月日 願主

敬白

(右) 其佛本願力聞名欲往生 皆悉致彼國自致不退転

(左) 修多羅曰 光明遍照十万世界 念佛衆生攝不捨

(台座正) 加左門 七兵衛 伊兵衛 善兵衛 市十郎

太右門 権左門 又兵衛

(台座右) 四郎兵衛 六兵衛 喜兵衛 喜右門 与右門

□□ 勝左門

(台座右) 源兵衛 与想兵衛 五左門 与兵衛 彦兵衛

権左門 淨西

別記15 順礼供養塔(横)

(正) 横道供養塔

(左) 宝曆六丙子天 六月吉祥日

(右) 施主 當村 おつや おとら 弥七母 おきわ

お三ち 勘右門 小右門

(台座正) 弘化二巳天十二月吉日 願主當所 鈴木利右衛門

裾野の石造物点描

裾野中央南西地区の順礼供養塔

裾野市全体の順礼供養塔は一九一塔数えられるが、この中央南西地区では三八体を数える。順礼とは聖地や霊地を順番通りに参拝しながらまわり、信仰を深め、同時に心身を鍛え、新たな体験と利益を得ることを目的とした宗教行為である。人によつては順礼を歩く宗教であり、巡る宗教であるとも定義される。そして順礼には特定の神仏を巡拝する順礼、三十三観音順礼や六地藏などもこれに含まれる。また、ある宗派の開祖や高僧ゆかりの寺々を巡るものもある。四国八十八カ所（四国の場合は特に遍路と呼ばれる）などこれにあたる。その他には名跡を巡る順礼もある。

裾野あたりによく見られるのは、いわゆる観音順礼で、それには西国三十三カ所・秩父三十三カ所・坂東三十三カ所など遠方を巡るものと御厨三十三カ所・駿豆三十三カ所などあった。駿豆三十三カ所は伊豆と駿河二国をわたることから両国三十三カ所ともいわれた。それぞれの順礼先は順礼の順序も定まっついていて、西国は和歌山県的那智青岸渡寺を皮切りに、大阪・奈良・京都・滋賀と巡り、また京都に戻って大阪・兵庫・京都・滋賀を経て最後は岐阜県の揖斐郡の華厳寺を巡拝すると決まっていた。那智の青岸渡寺へ行くには、伊勢を通るようコースを組み、まず伊勢参りをするのも忘れなかつた。富沢、佐野、伊豆島田、石脇の住民は、何人かで連れだつて、

西国、坂東、秩父、横道（駿豆？、御厨？）へ順礼を試みている。

坂東三十三カ所は鎌倉の杉本寺をスタートし、神奈川県内を巡り、埼玉県内に入り、東京都下に戻り、再び横浜で巡拝して、群馬・栃木・茨城と巡拝を繰り返して、千葉館山の耶古寺を最後の巡拝地としている。それからさらに秩父三十三カ所を巡るのだから、素直にまわれればおそらく半年くらいの時間を要するかも知れない。順礼の場合はそれぞれの寺院をまわるという宗教行為であるから、往路は精進潔斎の上、禁欲を保ち、順礼姿に身を包むといった厳しい修行の場でもあるが、帰路はどちらかといえば慰安と観光を兼ねた和気藹々とした旅であつたとされている。

この地区の人々だけではないが、裾野の順礼は、近くの横道を巡る場合がもっとも多い。その横道というのが小山、御殿場から長泉町にかけての御厨横道なのか、沼津、三島などを巡る横道なのかはつきりしないが、順礼先を横道と定める人がもっとも多かった。横道は西国や坂東、秩父などの写しと思われ、横道を順礼すること、西国や坂東などの霊地を巡拝したことと同じ効果が期待された。

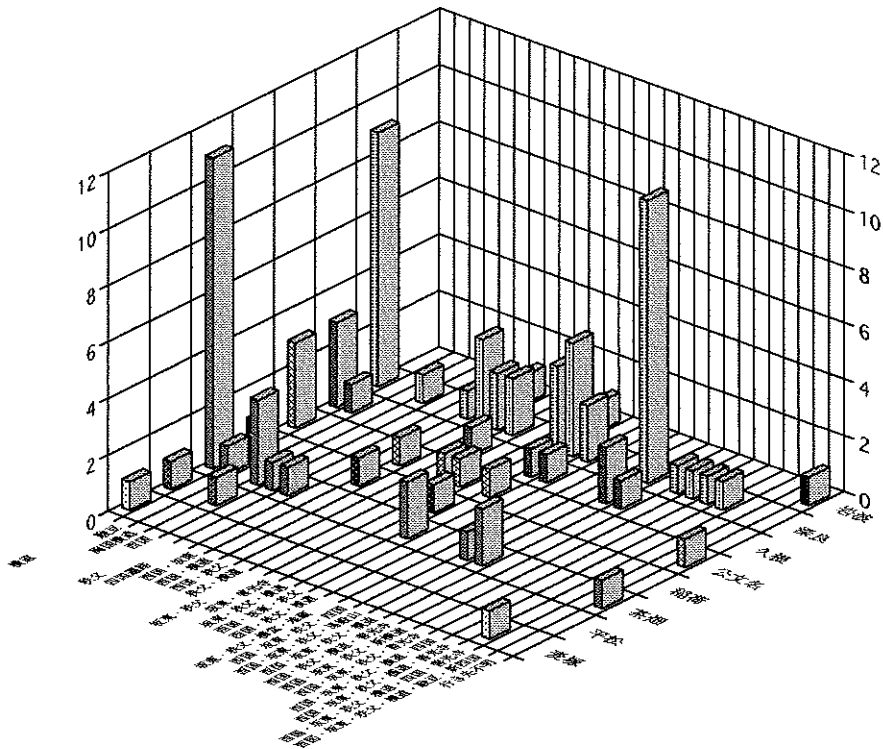
この地区では佐野村の人々のみが四国のお遍路さんを経験している。他には高山村や深良村、茶畑村、平松村の人々も四国遍路を試み、それぞれまず坂東、秩父・西国をまわって、四国まで足をのばす。この際もお伊勢さんは欠かさず参拝している。

坂東、秩父、西国を順礼し、四国遍路まで行くと、かなりの長旅となる。おそらく、一度で連続して順礼するのではなく、何年もかかって実施したのだろう。定輪寺（桃園）村、二ツ屋村は、供養塔を残さないが、他の村人と連れだつて順礼を経験している。

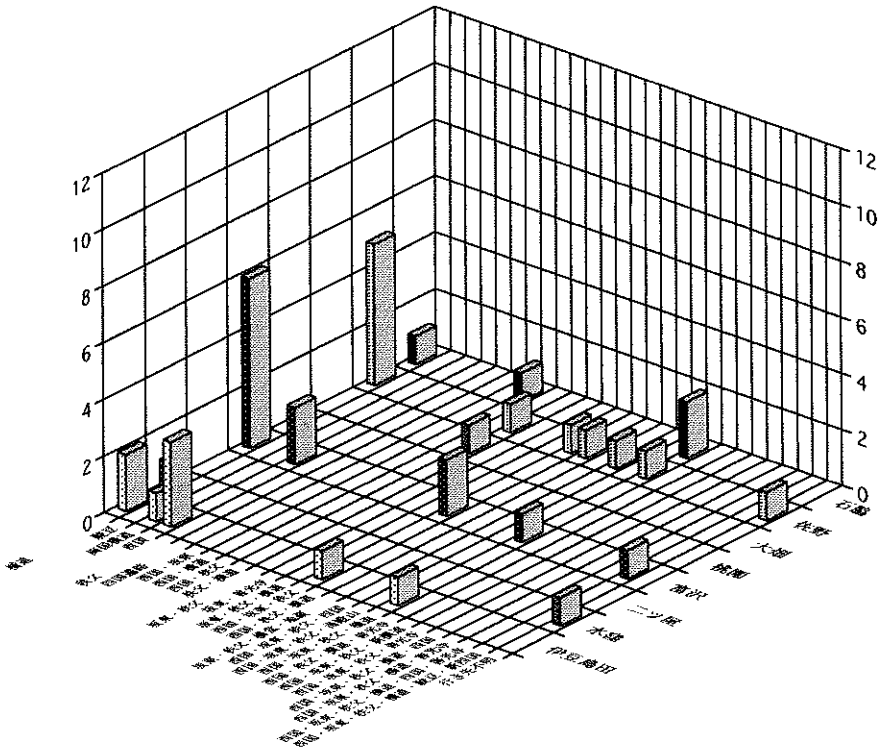
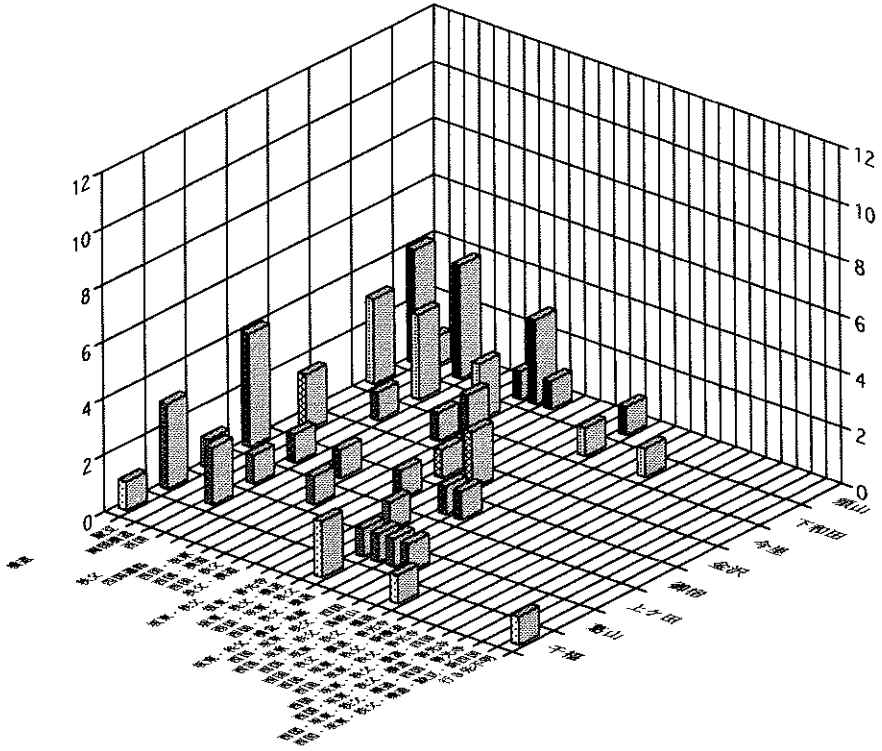
（瀬川裕市郎）

村別順礼行き先数

順礼行き先別数量	岩波	深良	久根	公文	稲荷	茶畑	平松	麦塚	須山	下和	今里	金沢	御宿	坊前	葛山	千鶴	石鷲	佐野	大畑	桃岡	雷沢	二俣	水窪	内泊	合計
横道		9	3	3	1	11	1	1	4	3			4	1	3	1	1	5			6		1	2	60
駿豆			1			1			1			2													5
両国横道																								1	1
西国		1				3	1		4	3	1		1	1	2						2			3	22
秩父						1																			1
四国遍路						1																			1
西国・坂東		1											1												2
西国・横道	1	3		1	1				1	2	1			1			1								12
西国・秩父		2							3																5
秩父・横道		2	1						1	2								1	1						8
坂東・秩父				1								1	1												3
坂東・善光寺				1																					1
坂東・秩父・横道	1	3			1							2		1											8
西国・坂東・秩父		4	1	1		2							1		1	2		1			2		1		16
西国・秩父・横道		2	1						1	1			1		1			1							8
坂東・秩父・横堂・地藏															1										1
西国・坂東・秩父・四国															1			1							2
西国・坂東・秩父・湯殿山						1																			1
西国・坂東・秩父・横道		10	2			2				1														1	21
西国・秩父・横道・善光寺			1													1	2	1			1				1
西国・坂東・秩父・新横道		1																							1
西国・坂東・秩父・善光寺		1																							1
西国・坂東・秩父・横道・四国		1																							1
西国・坂東・秩父・横道・善光寺		1																							1
西国・坂東・秩父・横道・四国・善光寺								1																	1
西国・坂東・秩父・横道・駿豆・新四国																					1				1
行き先不明	1			1		1										1		1						1	6
合 計	3	41	10	8	3	23	2	2	15	10	4	5	9	4	9	5	4	11	1		12		2	8	191

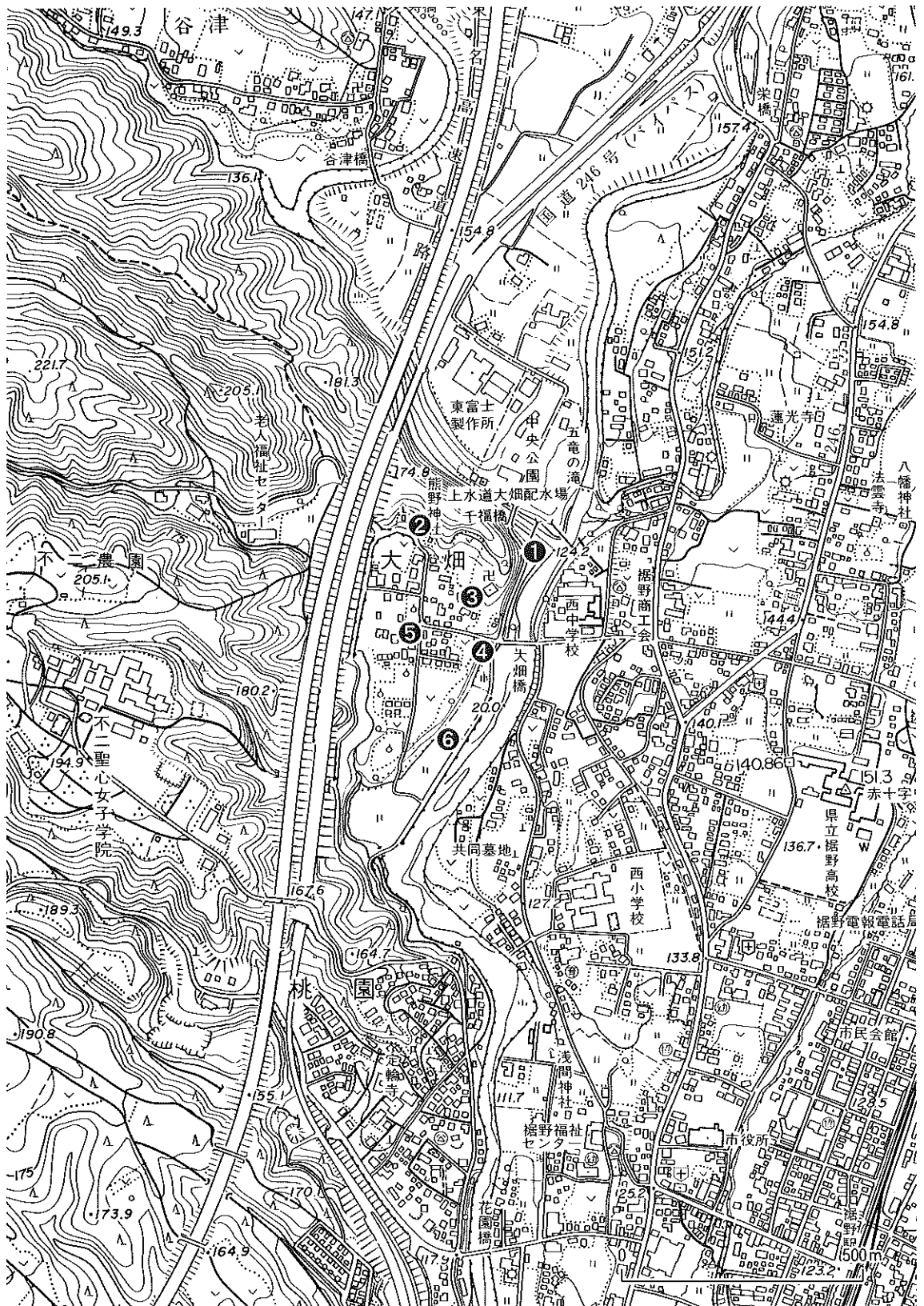


村別順礼行き先数（裾野東部）



村別順礼行き先数（上、裾野北西部 下、裾野中央・南西部）

大畑地区



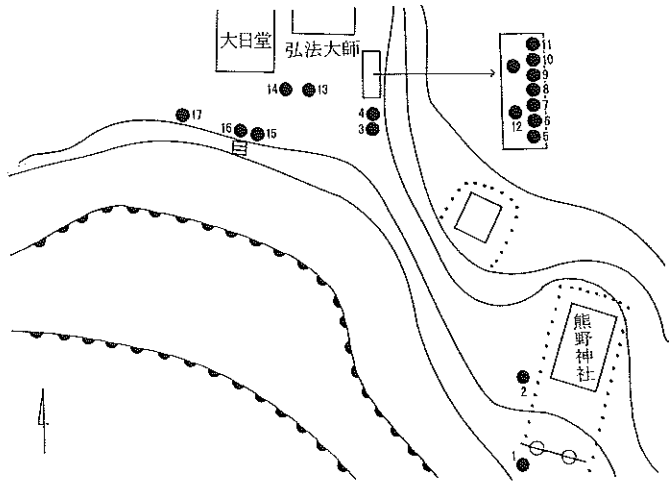


1 文学碑（歌碑）

大畑地区



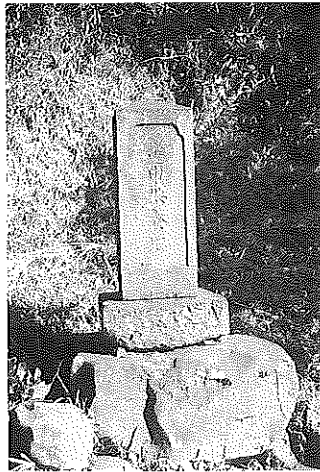
2-1 神社標石



2 熊野神社



2-4 順礼供養塔（秩・横）



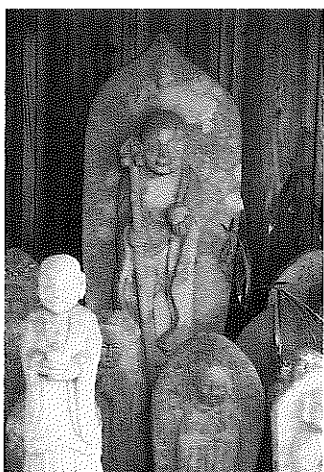
2-3 庚申塔



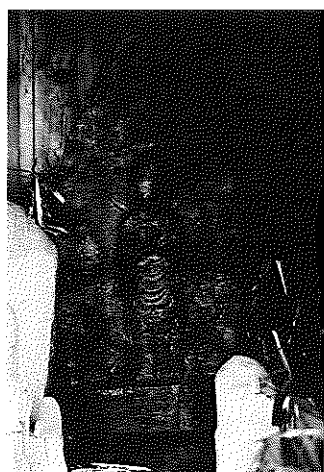
2-2 石灯籠



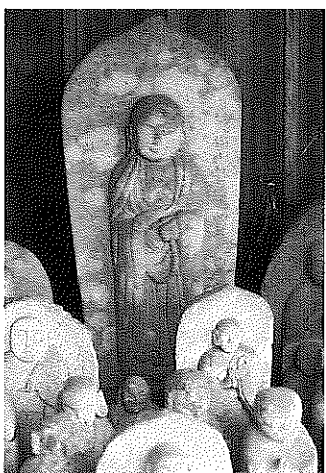
2-7 地藏菩薩（六地藏）



2-6 地藏菩薩（六地藏）



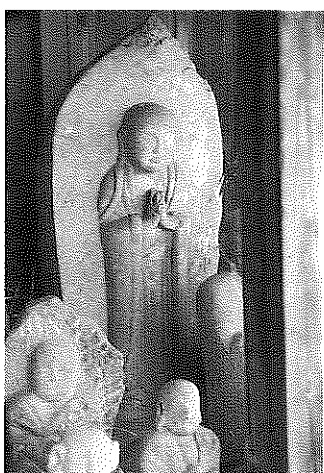
2-5 聖觀音



2-10 地藏菩薩（六地藏）



2-9 地藏菩薩（六地藏）



2-8 地藏菩薩（六地藏）

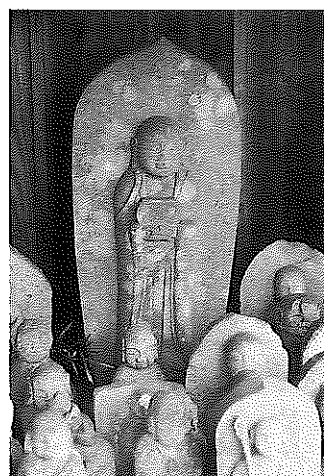




2-14 碑（名蓮社記念碑）



2-13 名号塔



2-11 地藏菩薩（六地藏）



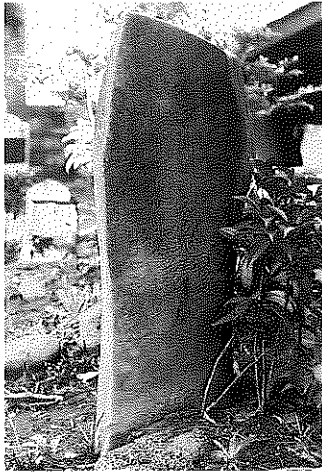
2-17 万霊塔



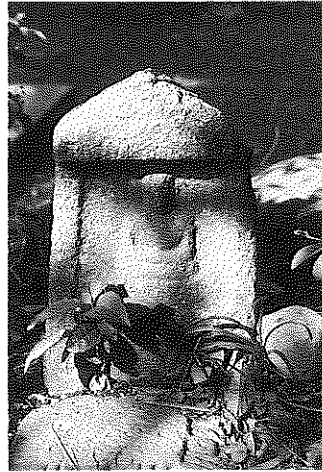
2-15 廻国塔



2-12 地藏菩薩（身代わり地藏）



3-3 地藏菩薩



3-2 阿彌陀如來



3-1 道標



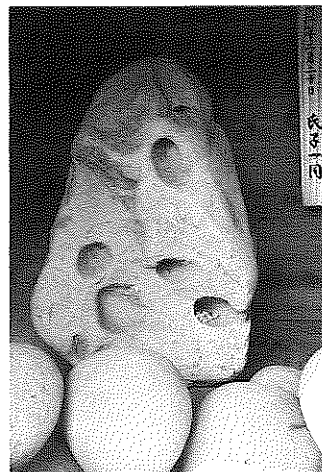
3-5 如意輪觀音



3-4 普賢菩薩



4-3 馬頭觀音



4-2 石造物(子寶石)



4-1 道祖神



4-6 馬頭観音



4-5 馬頭観音



4-4 名号塔




6 馬頭観音






5 馬頭観音

大畑地区石造物一覽表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
1	文字碑(歌碑)	板石	昭和50(一九七五)	460×440	(正) 富士が嶺や すそのに來り仰ぐとき いよゝ親しき 山にぞありける 牧水 (背) 昭和五十年六月建立 裾野市文化協会 裾野ライオンズクラブ 裾野青年会議所 裾野市有志
2-1	神社標石	角柱	昭和3(一九二八)	243×108	(正) 村社熊野神社 (背) 御大典記念 昭和三年十一月十日 奉納 加藤淺三建之 御殿場町 中嶋柳治謹書 佐野石工 山下政衛
2-2	石灯籠	灯籠	享保20(一七三五)	183×52	(正) 奉立納熊野三社宮 享保廿年 乙卯五月十七日 祢宜 市川□□怡世 信州石屋 池神市郎兵衛作 (宝珠欠損・火袋補修)
2-3	庚申塔	山型角柱	延享1(一七四四)	128×74	(正) 庚申供養塔 (右) 延享元申子歳 市川庄藏 同権右衛門 同佐右衛門 (左) 十月十七鳥 加藤安右衛門 同清七 同甚右衛門 同傳右衛門
2-4	順礼供養塔(秩・横)	櫛型	寛政2(一七九〇)	93×53	(正) 秩父 横道 念佛講 供養塔 (右) 寛政二年戌年 (左) 九月吉日
2-5	聖観音	舟型立像	大正2(一九一三)	72×32	(正) 伊豆田方郡西豆村小下田 土屋きく 大正二年五月 土屋
2-6	地藏菩薩(六地藏)	舟型立像		80×33	(正) 市川庄藏

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
2-14	碑 (名蓮社記念碑)	自然石	文政1(二八一八)	214 × 77	(正)  名蓮社號譽上人稱阿彌陀佛徳本行者大和尚 (背) 文政元寅星十月六日 施主當村 加藤安右衛門
2-13	名呂塔	自然石	昭和5(一九三〇)	194 × 108	(正) 南無大師遍照金剛 (背) 奉納 加藤淺三 御殿場市 仲島一峰書 佐野 山下政衛刻 昭和五年一月吉日
2-12	地藏菩薩 (身代わり地藏)				(慶応四年奉納像ほか一〇六体)
2-11	地藏菩薩 (六地藏)	舟型立像		79 × 35	(正) 加藤傳兵衛 二本松講中
2-10	地藏菩薩 (六地藏)	舟型立像	天保12(二八四一)	79 × 36	(正) 天保十二丑年四月初申日 普明廿二代徒補道發願 (頭部割れ目)
2-9	地藏菩薩 (六地藏)	舟型立像		80 × 37	(正) 市川善兵衛 市川正吉
2-8	地藏菩薩 (六地藏)	舟型立像		79 × 35	(正) 佐野村中 (舟型上部欠落)
2-7	地藏菩薩 (六地藏)	舟型立像		82 × 36	(正) 久根村 勝亦彌四郎

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文 (備考)
3-6	石造物 (宝珠蓮華台)			50 × 29	
3-5	如意輪観音	丸彫座像		30 × 22	
3-4	普賢菩薩	自然石		80 × 47	(正) 刻 (線刻)
3-3	地藏菩薩	自然石		95 × 41	(正) 〇 (線刻)
3-2	阿弥陀如来	駒型 浮彫座像		35 × 26	
3-1	道標	自然石		56 × 22	(正) 右ハぬまつ (左) 左リハみしま
2-17	万霊塔	自然石	文化4 (二八〇七)	122 × 91	(正) 萬霊塔 岨文化四卯十一月造立 願主 林道
2-16	石段袖石	山型角柱	文化5 (二八〇八)	24 × 20	(右) 文化五年 願主 林道 (左) 辰四月吉日 施主 當村中 (二対)
2-15	廻国塔	山型角柱	文化5 (二八〇八)	137 × 69	(正) 奉供養大乘妙典塔 日本 廻国 一宮國分寺 八幡大菩薩 (右) 岨文化五辰歳仲秋 (左) 讃岐國仲郡野田村産 願主 林道僧

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
4-1	道祖神	自然石	明治37(二九〇四)	51×33	(正) 道祖神 明治三十七年一月 小泉村 一本松 施主 鈴木クマ建之
4-2	石造物(子宝石)	自然石		30×70	(集石)
4-3	馬頭観音	舟型立像	安永7(二七七八)	92×43	(正) 安永七戊戌年 八月吉日 甚兵衛 与右衛門 傳左衛門 (舟型一部欠落)
4-4	名号塔	自然石	明治17(二八八四)	77×50	(正) 南無阿弥陀佛 天下和順日月清明利益衆生 明治十七甲申年八月造立 南門主繕正 蔦謹書
4-5	馬頭観音	舟型立像		95×59	(舟型一部欠落・風化)
4-6	馬頭観音	自然石		35×23	(正) 馬頭観  (下部土中埋没)
5	馬頭観音	舟型立像		98×78	
6	馬頭観音	舟型立像	弘化4(二八四七)	69×36	(正) □ 弘化四年未 五月日 因兵  傳九  (風化)